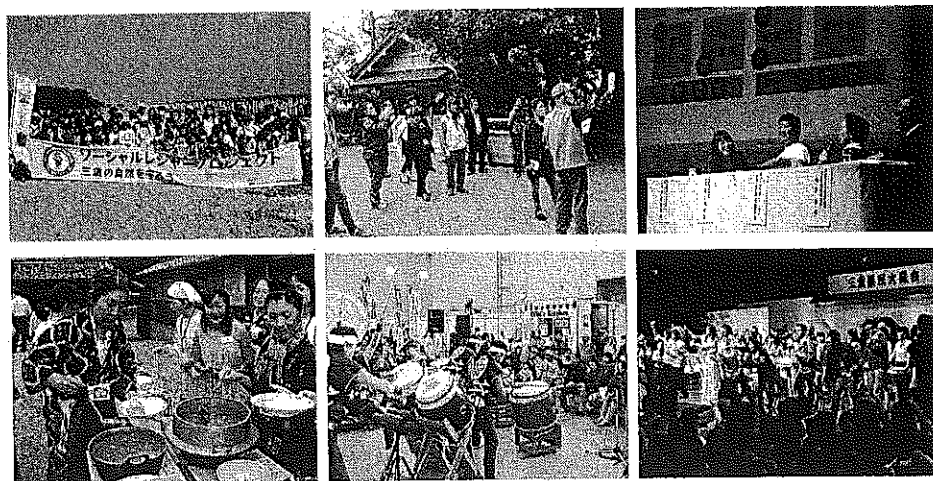
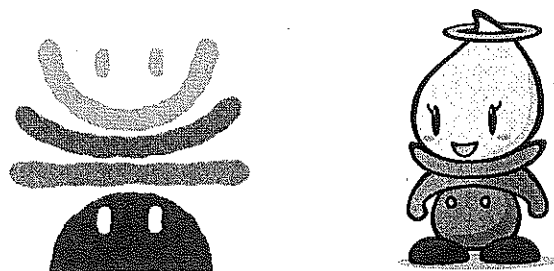


「美し国おこし・三重」 報告書

【未定稿】



平成 27 年 3 月

「美し国おこし・三重」 実行委員会

はじめに

「美し国おこし・三重」は、特色ある地域資源を生かして自発的に取り組む地域づくりを基本に、平成 21 年度から平成 26 年度までの6年間にわたって、地域の魅力や価値を向上させ、発信するとともに、集客・交流の拡大を図り、自立・持続可能で元気な地域づくりへとつなげてきた取組です。

これまで、それぞれの地域において、地域の課題や将来について語り合う「座談会」を開催することによって、地域づくりの担い手の掘り起こしを行うとともに、プロデューサーの助言や研修会の開催などによって、地域づくりの人材の育成に取り組んできました。

また、それぞれのパートナーグループに対しては、専門家の派遣や財政的支援、ネットワーク化支援、広報支援などを行うとともに、多彩な交流を生み出し、高い情報発信効果を持つさまざまな「イベント」を企画、または参画していただくことで、個々のパートナーグループの活動の基盤づくりにも取り組んできました。

そして、取組の最終年度となる平成26年度には、6年間の締めくくりとして、1,200 以上の地域づくりイベントを県内各地で行う博覧会「縁博みえ2014」を4月から 11 月に展開するとともに、パートナーグループが一堂に会し、県民の皆さんとの交流・連携を深める「三重県民大縁会」を 11 月に開催したところです。

これらの取組により、パートナーグループに 743 のグループ・団体が登録し、これらの活動分野は、防災、福祉、教育、環境、まちづくり等、さまざまな分野へと拡がりをみせ、さらには、複数のグループ・団体が自主的に連携した取組事例も増えるなど、地域の皆さんによる地域を元気にしようとする自主的・主体的な地域づくりの機運は着実に向上してきました。

「美し国おこし・三重」の取組は平成26年度をもって終了します。今後は、パートナーグループの皆さんが、「美し国おこし・三重」で培ったノウハウやスキル、ネットワークを活かし、さまざまな活動をさらに発展させるとともに、県民の皆さんが地域づくりの主役として三重の地域を元気にしていただくことを期待しています。

「美し国おこし・三重」実行委員会

目次

「美し国おこし・三重」の6年間のあゆみ	4
フォトギャラリー	5

「美し国おこし・三重」の取組概要

1 取組開始までの経緯	
(1) 「こころのふるさと三重」づくりに向けて	9
(2) 「美し国おこし・三重」基本構想の答申	9
(3) 「美し国おこし・三重」実行委員会の設立	9
2 基本構想の概要	
(1) 基本理念	11
(2) コンセプト	12
(3) 名称	12
(4) テーマ	12
(5) 基本方針	13
(6) 構成と展開	13
3 基本計画の概要	
(1) 目的	17
(2) 取組の柱	18
(3) 取組の構成	20
(4) 地域づくりの担い手の育成と支援	20
(5) 情報発信	21

「美し国おこし・三重」の取組実績

4 地域での美し国おこし（地域づくりの担い手の育成と支援）の取組実績	
(1) 座談会の開催	23
(2) パートナーグループの登録	25
(3) 拡大座談会、ご縁づくり交流会等の開催	28
(4) サポートメニューによる活動支援	30
5 テーマに基づき全県的に取り組む美し国おこしの取組実績	
(1) 人と自然の絆づくり	40
(2) 人と地域の絆づくり	45
(3) 人と人の絆づくり	47
(4) テーマプロジェクト情報発信事業	48
6 節目に行う効果的な情報発信の取組実績	
(1) オープニング	50
(2) 成果発表・交流会	53
(3) リニューアルスタート	55
(4) 県民力拡大プロジェクトイベント	56
(5) 県民力拡大プロジェクト	59

7	協賛・協力の取組実績	
	(1) 企業、大学等の協賛・協力	70
	(2) パートナーグループと企業とのタイアップ事業	72
8	情報発信の取組実績	
	(1) パンフレット、機関誌、情報誌の作成等	74
	(2) ホームページ、フェイスブックによる情報発信	76
	(3) シンボルマーク、マスコットキャラクター等の活用	77
	(4) 啓発グッズの作成	78
	(5) 交通広告の活用	79
	(6) その他	80
9	推進体制	
	(1) 「美し国おこし・三重」実行委員会	82
	(2) 「美し国おこし・三重」評価委員会	82
	(3) 「美し国おこし・三重」推進本部員会議	82

「美し国おこし・三重」の目標と検証・評価

10	目標と検証・評価	
	(1) 目標の設定と結果	85
	(2) 取組の波及効果	89

「美し国おこし・三重」の6年間のあゆみ

平成19年2月に、地域づくりや観光などの専門分野の有識者からなる「『こころのふるさと三重』づくりをテーマとしたイベント基本構想検討委員会」が設置され、イベントのめざすべき方向性や基本的な枠組みを定める基本構想について議論を深めました。同年8月には、「こころのふるさと三重を目指したイベント基本構想策定委員会」が設置され、11月に「美し国おこし・三重」基本構想が知事に答申されました。

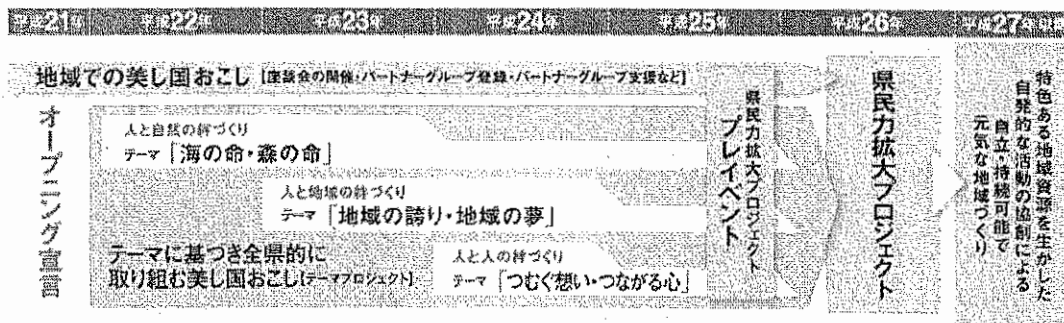
平成20年2月に、市町、地域づくり関係者、企業、有識者、県などの代表者などさまざまな主体で構成される「美し国おこし・三重」実行委員会を設置し、基本構想を確定するとともに、「美し国おこし・三重」の取組に着手しました。

「美し国おこし・三重」の初年度となる平成21年度には、「オープニング」を実施するとともに、取組の基本となる「地域での美し国おこし」をスタート、県内各地域における座談会の開催やパートナーグループの登録およびサポートを進めました。

この6年間の取組の中で、地域の課題やビジョンを話し合う座談会を約3,810回開催するとともに、県民の皆さんの幅広い参加を得て実施する拡大座談会等を136ヶ所で開催してきました。また、地域づくり活動を行う743グループ・団体の皆さんがパートナーグループに登録し、これらのグループに対しては専門家派遣、広報支援、ネットワーク化支援、財政的支援など、グループの活動の進捗状況や課題に応じたきめ細かな支援を行いました。

平成22年度～24年度は、県内各地のパートナーグループの活動の中から共通する分野の活動を連携し全県的・広域的な取組を推進する「テーマに基づき全県的に取り組む美し国おこし」において、「人と自然の絆づくり」、「人と地域の絆づくり」および「人と人の絆づくり」の3つの理念に基づくテーマを設定し、県内各地でテーマプロジェクトを実施しました。

そして、平成25年度には「県民力拡大プロジェクトプレイベント」を実施し、取組の最終年となる平成26年度には、6年間の取組の成果を県内外にアピールし、地域をよりよくしていこうとする三重の県民力を新たな時代に向かって拡大する「県民力拡大プロジェクト」を実施しました。



平成 21 年度 オープニング

住む人も訪れる人も幸福を実感できる元気な三重をめざして、県民の皆さんの地域づくり活動を応援する「美し国おこし・三重」。

平成 21 年 4 月にオープニング宣言を行い、「美し国おこし・三重」の取組をスタートしました。



オープニング宣言(平成 21 年 4 月 18 日・三重県文化会館)



オープニング宣言ステージと祝祭広場(三重県総合文化センター)でのブース出展

平成 21 年度～26 年度 地域での美し国おこし



県内各地で開催された「対話する」大会等 (左から)伊賀市、桑名市、津市、玉城町の会場



(左から)キックオフプロジェクト「たき環境くらぶ“竹遊号”プロジェクト」(多気町)、「地域の文化人をテーマにした地域づくりプロジェクト」(名張市)、連携事業「熊野古道世界遺産登録5周年事業」ウォークと交流会(尾鷲市)



(左から)県内各地で実施したパートナーグループとの座談会、専門家派遣、研修(ファシリテーション研修)の事例

平成 22 年度～24 年度 テーマに基づき全県的に取り組む美し国おこし

平成 22 年度～24 年度は、「人と自然の絆づくり」「人と地域の絆づくり」「人と人の絆づくり」の 3 つの理念に基づくテーマプロジェクトを展開。パートナーグループの活動の中から共通する分野の活動をネットワーク化し、情報発信することで全県的・広域的な取組として推進しました。

<人と自然の絆づくり> テーマ「海の命・森の命」

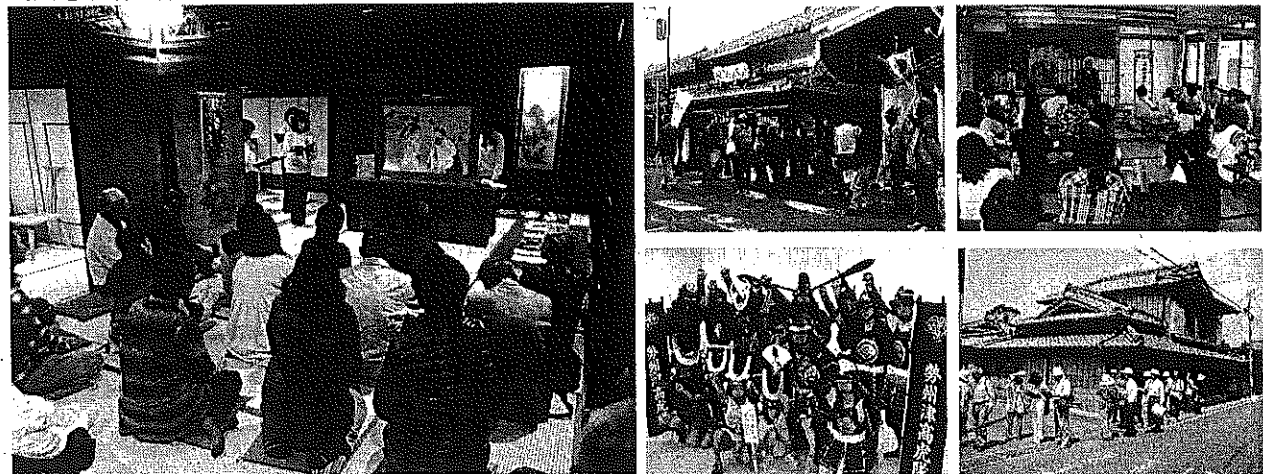


「海フェスと海を守る市民みんなのプロジェクト」(四日市市)



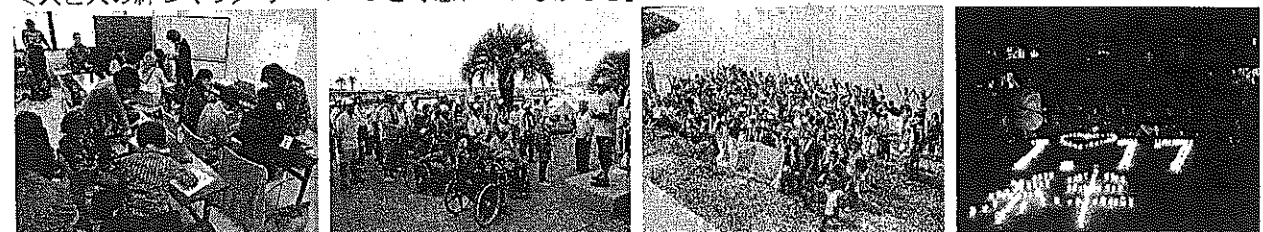
(左から)「バンブーエイド「桑西・竹の十三夜」」(桑名市)、「町内の清掃活動・地域住民相互の助け合い事業」(東員町)、「銚子川を日本一の川に! (銚子川清掃作業と遊休地開墾)」(紀北町)、「世界遺産熊野古道「伊勢路」の美化活動」(熊野市)

<人と地域の絆づくり> テーマ「地域の誇り・地域の夢」



「美し国・三重」の物語おこし 紙芝居キャラバン隊」(熊野市)、(右欄上段左から)「古地図から見る町家ぶらり探検」(伊賀市)、「民話でめぐる菰野ぐるり」(菰野町)、「安濃津戦国武将隊」パフォーマンス事業」(津市)、「伊勢街道ウォークと齋宮浪漫まつり」(明和町)

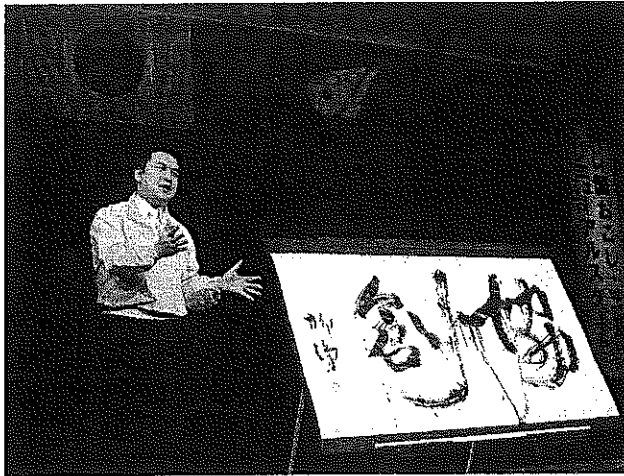
<人と人の絆づくり> テーマ「つむぐ想い・つながる心」



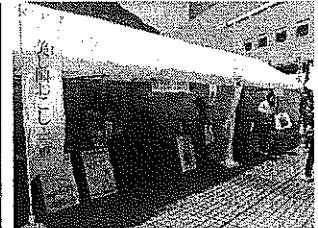
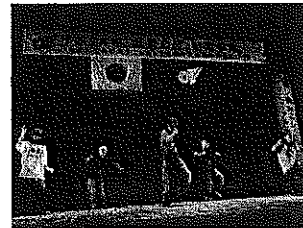
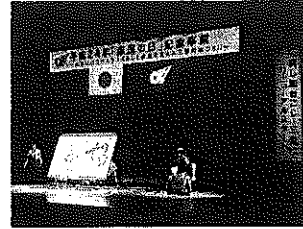
(左から)「子育て支援団体とママの絆づくり「三重子育てITフォーラム 2012」」(四日市市)、「第7回海のバリアフリーまつり」(津市)、「漂着ゴミ問題を考える答志島奈佐の浜海岸清掃とシンポジウム等開催事業」(鳥羽市)、「子ども防災サミット」(鈴鹿市)

平成 24 年度 リニューアルスタート

平成 24 年度は、3 年間（平成 21 年度～23 年度）の取組の検証結果と「みえ県民力ビジョン」の考え方に基づき、基本計画を改定し、リニューアルスタートしました。



リニューアルスタート発表(平成 24 年4月 14 日・三重県文化会館)

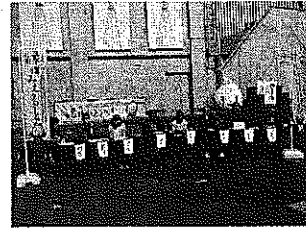


リニューアルスタートのステージと祝祭広場(三重県総合文化センター)でのブース出展(下段右)

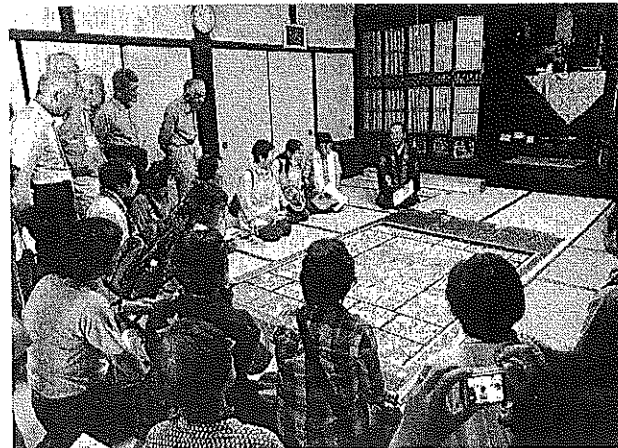
平成 25 年度 県民力拡大プロジェクトイベント

平成 25 年度は、「県民力拡大プロジェクト」(平成 26 年度)に向けて、「県民力拡大プロジェクトイベント」を実施しました。

<「プレ縁博みえ」企画提案モデル事業>



(上段左から)「神内の魅力」の再発見と「絆の里」づくり(紀宝町)、「社会をデザインする縁博 in 伊賀でデザイン博」(伊賀市)、「～度会縁遊祭～joint」(度会町)、(右欄)「よっかいち港 ピンクエクスポージョン事業 ～縁づくりと元気で薔薇(幸せ)色の四日市をめざして～」(四日市市)と主催したパートナーグループ「39の輪」のみなさん(左欄下段右)



(左欄)「江戸からのご縁で集ふ伊勢の道 ～斎宮をほつき歩竹の春～」(明和町)、(右欄上段左から)「わがまちの偉人・武将とまちづくり～戦国から現代へ～」(松阪市)、「ヤマトケル群行ウォーキング祭り」(亀山市)、「丹敷戸畔の謎」解明プロジェクト『都に続く縁の道を歩く』～さあ！まいこましてこかあ～」(大紀町、大台町)、「とっておき☆NAVIー縁で伝える、私たちの想いと誇りー」(紀北町)

平成 26 年度 県民力拡大プロジェクト

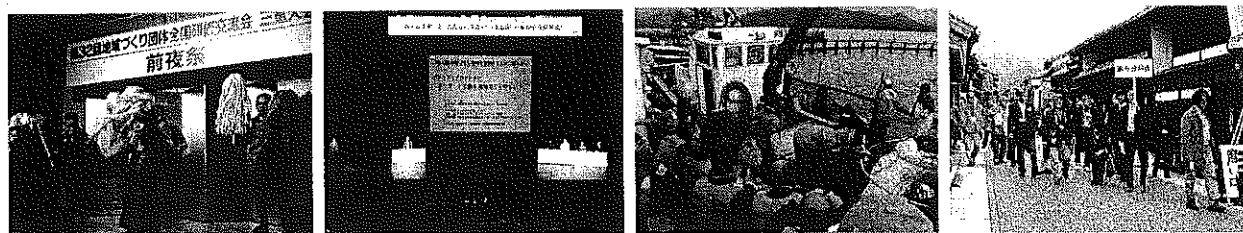
「美し国おこし・三重」の取組の最終年度となる平成 26 年度は、「縁博みえ 2014」「三重県民大縁会」^{だいせんかい}「第 32 回地域づくり団体全国研修交流会三重大会」を 3 つの柱とする「県民力拡大プロジェクト」を展開。パートナーグループをはじめ、地域づくりに取り組む団体や企業、多数の県民の皆さんの参加・参画を得て、三重の地域づくりの盛り上げにつなげました。



(左から)「縁博みえ2014」キックオフイベント(四日市市)、「縁博みえ2014」オープニングイベント(津市)、「縁博みえ2014」PRキャラバン出発式(津市)、「縁博みえ2014」PRキャラバン隊の活動(伊勢市)



パートナーグループ等による「縁博みえ2014」のイベント (左から)「町屋海岸清掃」(津市)、「神木なごみ祭」(御浜町)、「四日市地域ご縁づくり交流会」(四日市市)、「福祉のめんめんフェスタ2014」(亀山市)



第 32 回地域づくり団体全国研修交流会三重大会 (左から)前夜祭(平成 26 年 11 月 7 日・ホテルグリーンパーク津)、全体会(11 月 8 日・三重県文化会館)、分科会(11 月 8・9 日・写真は南伊勢町と亀山市)



「三重県民大縁会」(平成 26 年 11 月 22 日)のオープニング(実行委員会会長あいさつ)、会場の概観およびブース(三重県営サンアリーナ)



「三重県民大縁会」ファイナーイベントのステージ

「美し国おこし・三重」の取組概要

1 取組開始までの経緯

(1) 「こころのふるさと三重」づくりに向けて

三重県では、平成 19 年に策定された三重県総合計画「県民しあわせプラン」第二次戦略において、住む人も訪れる人も心の豊かさを実感できる「こころのふるさと三重」を実現するため、「みえの舞台づくりプログラム(第二次戦略計画の重点的な取り組み)」の一つとして、「こころのふるさと三重」づくりプログラムに取り組みました。

このプログラムは、特色ある地域資源を活用した地域づくりと多彩なイベント、観光振興の取り組みを一体的に展開することにより、地域の魅力の再発見や地域経済の活性化、地域の新たな担い手づくりなど、自立・持続的な地域づくりを進めるものであり、「美し国おこし・三重」は、このプログラムを推進するための事業の一つとして位置づけられました。

(2) 「美し国おこし・三重」基本構想の答申

平成 19 年2月に、取組のめざすべき方向と基本的な枠組みを定める基本構想を検討するため、地域づくりや観光などの専門分野の有識者からなる「『こころのふるさと三重』づくりをテーマとしたイベント基本構想検討委員会」が設置され、議論を深めました。

そして、同年8月には、「こころのふるさと三重を目指したイベント基本構想策定委員会」が設置され、同年 11 月に「美し国おこし・三重」基本構想が知事に答申されました。

(3) 「美し国おこし・三重」実行委員会の設立

基本構想の答申を受けて、平成 20 年2月には、市町、地域づくり関係者、有識者、県などの代表者などさまざまな主体で構成される「美し国おこし・三重」実行委員会が設立され、基本構想を確定するとともに、「美し国おこし・三重」の取組に着手しました。

* 「三重県地域づくり推進条例」との関係について

「三重県地域づくり推進条例」(以下「条例」という。)が平成 20 年5月 20 日に公布、施行され、その目的を「県の役割等を明らかにすることにより、多様な主体の協働による地域づくりが推進され、もって個性豊かで活力ある地域社会の実現を図ること」とし、県の役割を「住民をはじめとする多様な主体と対等の立場において信頼かつ協調の関係を保持し、多様な主体の意見が反映された地域づくりが円滑かつ効果的に行われるよう必要な仕組みを構築し、機能させるものとする」と規定されました。

「美し国おこし・三重」の取組については、平成 21 年4月から条例第4条第1項で規定された地域づくりの仕組みの一つとして位置づけられました。

(「美し国おこし・三重」の取組開始までの経緯)

【平成 18 年度】

- 平成 19 年 2 月 3 日 「こころのふるさと三重」づくりをテーマとしたイベント基本構想検討委員会の設置
第 1 回基本構想検討委員会の開催
- 平成 19 年 3 月 28 日 第 2 回基本構想検討委員会の開催

【平成 19 年度】

- 平成 19 年 5 月 17 日 第 3 回基本構想検討委員会の開催
- 平成 19 年 7 月 県総合計画「県民しあわせプラン」第二次戦略計画を公表。重点的な取組である「みえの舞台づくりプログラム」に、「こころのふるさと三重」づくりプログラムを位置づけ
- 平成 19 年 8 月 1 日 「こころのふるさと三重を目指したイベント基本構想策定委員会」の設置
第 1 回基本構想策定委員会の開催
- 平成 19 年 8 月 23 日 基本構想策定委員会第 1 回小委員会の開催
- 平成 19 年 9 月 11 日 第 2 回基本構想策定委員会の開催
「美し国おこし・三重」基本構想（中間案）の取りまとめ
- 平成 19 年 9 月 28 日 基本構想（中間案）に対する県民からの意見募集（パブリックコメント）
～10 月 29 日
- 平成 19 年 10 月 18 日 基本構想策定委員会第 2 回小委員会の開催
- 平成 19 年 11 月 6 日 第 3 回基本構想策定委員会の開催
「美し国おこし・三重」基本構想の取りまとめ
- 平成 19 年 11 月 15 日 基本構想策定委員会 若林広幸委員長から三重県知事へ
「美し国おこし・三重」基本構想の答申
- 平成 20 年 2 月 21 日 「美し国おこし・三重」実行委員会の設立
第 1 回「美し国おこし・三重」実行委員会の開催
- 平成 20 年 3 月 25 日 第 1 回「美し国おこし・三重」実行委員会幹事会の開催

【平成 20 年度】

- 平成 20 年 7 月 30 日 「美し国おこし・三重」基本計画（中間案）に対する
～ 8 月 29 日 県民からの意見募集（パブリックコメント）
- 平成 20 年 11 月 「美し国おこし・三重」基本計画の策定

【平成 21 年度】

- 平成 21 年 4 月 「三重県地域づくり推進条例」第 4 条に基づく仕組みに
位置づけ
- 平成 21 年 4 月 18 日 「美し国おこし・三重」オープニング

2 基本構想の概要

基本構想では、「美し国おこし・三重」の基本理念、コンセプト、名称、テーマ、基本方針などを以下のとおり定めました。

(1) 基本理念

人と人、人と地域、人と自然の“絆”を紡ぎ上げ、
神話や伝説に語り継がれるにふさわしい「美し国 三重」を
つくります

私たち日本人の暮らし、生き方の原点を見つめ直すことで、人と人、人と地域、人と自然の関係を創り上げ、自立・持続可能な地域づくり～美し国おこし～を進めます。そして、地域づくりのさまざまな取組や活動、その成果をイベントを通じて、全国、世界に発信していきます。

三重は海や山の豊かな自然に恵まれ、人が暮らすのに理想的な地域として、古くから「美し国」と呼ばれてきました。また、日本人の精神文化・生活文化の源流ともいえる「伊勢」、「熊野」を有し、「こころのふるさと」として、人々を魅了し、多くの人々が三重の地を訪れました。さまざまな街道や海の道を通した、諸国との文化や情報の交流は、三重の各地に豊かな文芸・芸術や産業を育み、それらは、また、全国に発信されていきました。

太陽と月と大地、そして、それらがもたらす山の幸・海の幸・野の幸への感謝、自然と共に生きてきた日本人の暮らしの原点を今に伝える歴史的・文化的資産の存在。また、その感謝の気持ちを「おかげさま」という端的な言葉で暮らしの中に受け継いできた人々。まさに三重は、人と人、人と地域、人と自然の“絆”が保たれてきた地であると言えます。

今、世界に目を向けると、グローバル化の進展による地球規模での経済競争の激化、環境問題の深刻化など、時代は大きな転換期を迎えています。

私たちの身近な地域にあっても、これまで経済性や効率性を求めすぎた結果、地域の特色や独自性が失われ、住民が地域への誇りや愛着を見失いつつあり、さまざまな“絆”が薄れてきています。

このような中で、私たちは“ものの豊かさ”だけでは幸せになれないことに気がつき、“こころの豊かさ”を求める動きが広がってきています。

今まさに、人と人、人と地域、人と自然の“絆”をもう一度見つめ直し、住む人も、訪れる人も、本当の“豊かさ”や“しあわせ”を感じることができる地域社会を築くため、一人ひとりが行動を起こす時ではないでしょうか。

折しも、今、三重では、古式に則り二十年毎に社殿や御装束神宝を新調して行われる神宮式年遷宮の諸祭行事が進められています。心のつながりや自然を大切にする暮らしのあり様を私たちに気づかせてくれる、これらの行事が行われている今こそ、これまでの経済や効率優先の暮らしの中で失われてきたもの、埋もれてしまったものに、今一度、光をあてる絶好の機会ではないかと考えます。

「造化（自然）にしたがひ、造化（自然）にかへれ」

（松尾芭蕉「笈の小文」より）

私たちは、この機会を捉え、先人たちが自然と共に生きる中で培ってきた日本人の情緒や感性を見つめ直し、地域の中で育まれてきた特色ある資源や創意工夫を生かすとともに、地域内外の交流・連携を促進することにより、自立・持続可能な地域づくりに取り組むこととします。加えて、私たちの暮らしに密接に関わる主要なテーマについては、全県あげて取り組みます。

「美し国おこし」のさまざまな取組や活動、その成果をイベントを通じて、全国、世界に発信していきます。

* 「美し国」

文献では「日本書紀」巻六 垂仁天皇 25 年 3 月の条、天照大神の祭祀（天照大神をお祀りする宮地を探す）を倭姫命に託した次の一節に初見されます。

【日本書紀原文】

是神風伊勢国則常世之浪重浪帰国也、傍国可怜国也。欲居是国。

【意味】

この神風の伊勢国は、常世の波がしきりに打ち寄せる国である。大和の傍らにある国で、美しいよい国である。この国におりたいと思う。（と伊勢の地まで来られた倭姫命に天照大神が告げられました。）

（参考：県史Q&A（県文化振興室県史編さんグループ ホームページ）

なお、「美し国」という言葉には、伊勢国が永久の理想郷とされる「常世」に隣接する、「心の満たされる地である」という意味も含まれていると言われています。

つまり、「美し国」とは、海や山の自然に恵まれ、また、心が満たされる、まさに、人が暮らすのに「理想的な地域」であると言うことができるのではないのでしょうか。

（2）コンセプト

「文化力」を生かした持続する地域づくり

* 「文化力」

「文化」を芸術や文化財だけでなく、「生活の質を高めるための人々のさまざまな活動およびその成果」と広く定義したうえで、「文化の持つ、人や地域を元気にし、暮らしを良くしていく力および人や地域が持っている人々を引きつけ魅了する力」を「文化力」ととらえています。そして「文化力」の視点で、すべての政策を見直し、経済と文化のバランスの取れた政策へと転換を進めています。

（3）名称

美し国おこし・三重

（4）テーマ

めぐる つむぐ はぐくむ ^{とこわか} 常若の三重

(5) 基本方針

① 地域の個性や文化にこだわります。

- 「美し国おこし・三重」では、地域資源の持つ多面的な価値に着目し、独自性のある地域づくりを進めます。
- 他にはない地域の魅力・価値を高めることにより、「美し国おこし・三重」終了後も引き続く、自立・持続可能な地域づくりにつなげていきます。

② “私たちの暮らしの場” そのものが舞台です。

- 「美し国おこし・三重」では、古くから祭りが“絆”に支えられた暮らしの中で自ずと行われてきたように、“絆”をもう一度見つめ直すこととします。
そのため、地域と地域の連携、人と人との交流を大切に、県内全域を対象に、私たちの日常の暮らしの場そのものを舞台として展開していきます。

③ 住む人、訪れる人、みんなが主役です。

- 「美し国おこし・三重」では、県民の皆さんが自分たちの地域のことを自発的・主体的に考え取り組むこととします。そのことを通して、地域の担い手づくりを進めます。
また、三重を訪れる人たちとの交流や連携を通して、美し国を共に作り上げていきます。

④ 目的を共有し、取組の成果を検証します。

- 「美し国おこし・三重」では、それぞれの取組に携わる方が目的を共有し、その取組の成果を検証することにより、その後の地域づくりの継続・発展につなげていきます。

⑤ 新たなイベントのスタイルを創造します。

- 「美し国おこし・三重」では、従来、一過性のものと捉えられがちであったイベントを、取組の企画から準備に至る過程、活動の発表、その後の成果の継承を含む一連の取組すべてを表すものと捉えます。
- 暮らしに密接に関わる主要なテーマについては、全県的な取組につなげていきます。
- 長期に亘る「美し国おこし・三重」の取組を通して、「新しい時代の公」を推進していきます。

(6) 構成と展開

① 構成

ア) それぞれの地域の個性を生かした取組（構成①）

【地域での美し国おこし】

人と人、人と地域、人と自然の“絆”、豊かな地域づくりは、私たちの住んでいる地域に誇りと愛着を感じることから始まります。そのため、地域について学び、課題や将来を語る場づくりや地域資源を掘り起こす取組を進め、「地域での美し国おこし」の成果を示します。なお、複数の市・町に跨る広域的な地域づくりも重要であると考えます。

イ)「美し国 三重」が共有する理念に基づいた取組（構成②）

【テーマに基づき全県的に取り組む美し国おこし】

伊勢や熊野との関わりの中で培われてきた、自然との共生、循環・再生の考え方を始めとする日本人が大切にしてきた感性や本当の豊かさのあり方について、三重の地から国内外に提案します。

例えば、景観形成や森づくり、環境問題への取組など、私たちの生活の質を高め、本物をめざす取組をテーマごとに全県的に進めます。

ウ) 効果的な情報発信の取組（構成③）

長期に亘る「美し国おこし・三重」の期間を通して、一連の取組を広く国内外に情報発信していきます。

また、期間中の節目には、「美し国おこしのオープニング」や「集大成イベント」などの情報発信力の強い取組を行います。

② 展開

【平成 19～20 年】

○「美し国おこしの準備」

- ・基本計画、実施計画等の策定を進めるとともに、地域のキーパーソン探し等、美し国おこしの準備を進めます。

【平成 21 年】

○「美し国おこしのオープニング」（構成③）

- ・「美し国おこし・三重」実行委員会が中心となって、発信力のある催し物や式典など、平成 26 年まで続く「美し国おこし」のキックオフを行い、今後の取組の方向性を示すとともに期待感を高揚させます。
- ・県内の地域においては、平成 26 年に向けて、国内外からの幅広い集客をめざすため、「交流」をキーとした地域づくりの取組を展開します。
- ・開催内容は、「美し国おこしのオープニング」にふさわしいものとします。

【平成 22～25 年】

○「地域での美し国おこし」（構成①）

- ・県内それぞれの地域において、皆さんが連携、協力して、特色を生かした地域づくりに取り組み、その成果を示します。そして、その取組をバージョンアップさせ、平成 26 年の「美し国おこしの集大成イベント」につなげます。
- ・それぞれの地域では、市・町が中心となり、既存の交流施設などを活用した、情報の受発信や幅広い集客・交流を進めます。
- ・「美し国おこし・三重」実行委員会は、統一的な情報発信や宣伝誘客、実験的な取組などを進め、全体としての付加価値を高めます。

○「テーマに基づき全県的に取り組む美し国おこし」（構成②）

- ・私たちの暮らしに密接に関わるテーマ、例えば、景観形成や森づくり、環境問題への取組など、多様な主体の取組を全県的に盛り上げていきます。
- ・これらの取組を全県的に進める機運を醸成するため、会議やシンポジウム等を積極的に開催し、幅広い参画をめざします。

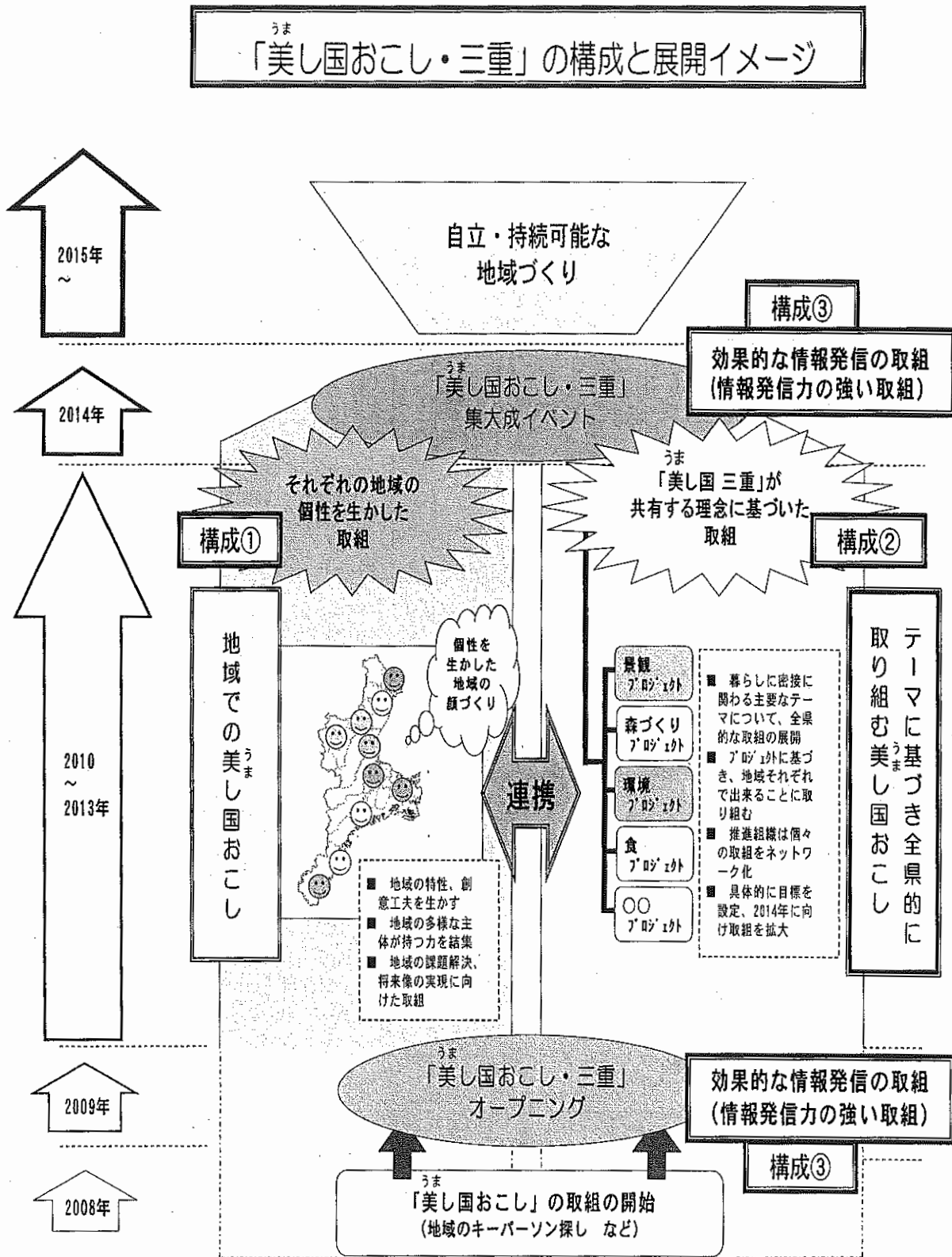
【平成 26 年】

- 「美し国おこしの集大成イベント」(構成③)
 - ・これまでに行ってきた取組の成果を集約し、「美し国おこしの集大成イベント」を実施します。
 - ・平成 19 年から行ってきた取組の集大成にふさわしいセレモニーを実施します。
 - ・国内外からの幅広い集客をめざします。

【平成 27 年以降】

- 『自立・持続可能な地域づくり』をめざして
 - ・「美し国おこし」の成果を生かして、自立・持続可能な地域づくりにつなげていきます。

(図 2-1) 「美し国おこし・三重」の構成と展開イメージ



3 基本計画の概要

「美し国おこし・三重」基本構想を受け、6年間にわたる取組の具体的な方策と取組手順を示すため、平成20年11月に「美し国おこし・三重」基本計画をとりまとめました。

この基本計画に基づく取組の推進にあたっては、県民の皆さん、企業、市町、県など多様な主体が一緒になって「公」を担っていくことで、住みよい地域社会をつくっていかうという「新しい時代の公」の考え方のもと、地域づくりを担うさまざまな主体で構成する「美し国おこし・三重」実行委員会を組織し、事業を推進することとしました。

また、「美し国おこし・三重」は、「地域での美し国おこし」、「テーマに基づき全県的に取り組む美し国おこし」および「節目に行う効果的な情報発信の取組」の3つの構成からなる取組であることを踏まえ、さまざまな主体が役割を分担しながら、互いに連携して取り組むこととしました。

なお、この基本計画については、「美し国おこし・三重」の取組の中間地点となる平成24年3月に、平成21年度～23年度の3年間の取組の検証結果と「みえ県民力ビジョン」の考え方に基づき、以下の改定を行いました。

- ①平成26年に実施する県民力拡大プロジェクトの内容を明示すること。
- ②イベント手法を活用し、テーマプロジェクトなどの取組の一体感や情報発信力を高め、パートナーグループの活動の促進を図ること。
- ③取組終了後を見据え、地域や分野を越えた、個人やグループ、企業・団体間のネットワーク化の支援を図ること。

※基本計画の概要については、改訂後のものを記述しています。

(1) 目的

特色ある地域資源を生かした自発的な活動の協創による
自立・持続可能で元気な地域づくり

(地域の実情と課題)

三重県では、市町村合併に伴い、住民の皆さんに最も身近な基礎自治体である市町の区域が広がり、より効率的な地域経営が求められる一方で、人口減少社会の中で、少子高齢化などの環境変化への対応を迫られる状況にあります。

県北部地域では、道路などの社会基盤整備や企業誘致などが進む一方、価値観やライフスタイルの多様化、外国人住民との共生などに伴うコミュニティのあり方が問われています。

また、県南部地域においては、過疎・高齢化などにより、コミュニティの持つ機能が弱体化してきており、地域内外との交流・連携を進める仕組みを構築するなど、いかに地域を活性化していくかが課題となっています。

地域間格差の是正や社会システムの変革など、市町や県レベルの取組だけではこのような課題に対応できないところもありますが、これまでの地域づくりにおいては、薄れゆく“絆”の維持・再生や、地域を担う人づくりと人材を生かす舞台づくりが十分かつ継続的に進められてこなかったことを認識する必要があります。

このため、それぞれの地域において、少子高齢化や団塊の世代の動向など今後の人口構成の特性をふまえつつ、地域への愛着や誇りの醸成、地域資源の再認識・活用といった視点に立ち、人材の育成・活用、コミュニティや“絆”の維持・再生、

地域の魅力・価値を高める取組などを通じて、自立・持続可能で元気な地域づくりをきめ細やかに進めていくことがますます重要となります。

(自立・持続可能で元気な地域づくりに向けて)

本実行委員会では、自然や歴史・文化など特色ある地域資源の持つ多面的な価値に着目して、その地域ならではの埋もれた魅力を再発見し、磨き上げを行おうとする住民の皆さんがめざす地域づくりを自ら実践できるよう、支援します。

また、こうした特色ある地域資源を生かした地域づくりにより、地域が活性化し、人的にも、組織的にも、経済的にも次世代へ継続できる仕組みが構築されるよう、さまざまな主体の連携により取組を進め、自立・持続可能で元気な地域づくりにつなげていきます。

(めざす地域の姿)

そこに住む人がその地域をよりよくするため、人と人、人と地域、人と自然の“絆”を深め、自らができることを考え実践することで、地域の生活の中で充実感を得、その地域に住み続けたいと感じることができる地域。そして、地域の人々がそれらの活動に共感を覚えることで、地域の全ての人々がその地域への愛着・誇りを持つことができる地域。

また、そこに訪れる人がそうした人たちの生活に理解・共感をするとともに、おもてなしの心などを体感することができ、また来たい、住んでみたいと思える地域。

この取組を契機として、そのような住む人も訪れる人も幸福を実感できる元氣な三重の実現をめざします。

(2) 取組の柱

① 自発的な地域づくりグループへの支援

「美し国おこし・三重」では、人と人、人と地域、人と自然の“絆”づくりや、特色ある地域の資源を活用した付加価値づくりについて、既に取り組んでいるグループの支援や新たなグループの立ち上げや育成を支援します。

地域の自立性、持続性を高めるには、住民の皆さん自身のアクティブ・シチズンとしての自立的な意識や自発的な活動が最も重要です。さまざまな主体による「協創」の観点からも、そのことが全ての取組の根幹となることから、住民の皆さんの自発的活動の活性化に取組の焦点をあてていきます。

具体的には、既に地域づくりを進めているグループや新しく地域づくりを始めるグループなど、取組の趣旨に沿った、住民の皆さんによる自発的なグループを対象に、地域について学び、地域の課題や将来の展望を語り合う場（座談会）を設け、さまざまな主体が連携して地域に直接入り、県民の皆さんと向かい合って、対話を通じて、“絆”を深める取組や地域資源を掘り起こす取組を支援し、地域の魅力や活力を高めていきます。

② 自立性・持続性を高める仕組みづくり

「美し国おこし・三重」では、取組終了後を見据え、グループの活動の自立性・持続性を高めるための支援を行う既存の中間支援組織と連携しながら取組を進めていくとともに、中間支援組織をめざすパートナーグループの支援を行います。

住民の皆さんによる自発的な地域づくりのグループの活動は、それ自体営利を目的としていない、または、事業性を伴うにしても組織の自立性・持続性に必要十分な経営基盤を確保していないケースが多いのが実情です。

自立性・持続性を高めるためには、このようなグループが、各々の段階に応じた学びの場や機会を設け、パートナーグループの構成員の意識と実力を高める人づくりや、それぞれの分野で流通、誘客、情報、金融などの専門組織や専門家との連携・ネットワークづくりなど、グループの成長戦略や持続戦略を形成できることが重要です。

こうした活動を県内の市民活動支援センターやさまざまな分野で活動する既存の中間支援組織と連携しながら取組を進めていくとともに、中間支援組織をめざすパートナーグループの支援を行います。

③ 新たなイベントスタイルによる県民力の結集と成果の情報発信

「美し国おこし・三重」は、企画・準備段階から、交流・連携の過程、活動の発表、事後の評価、成果の継承に至るまで、そのプロセス全般をイベントとしてとらえる新たなイベントスタイルによる取組とし、各々の段階でイベント手法を活用しながら、情報発信力を高めて、取組を進めていきます。

また、さまざまな主体が特色ある地域資源を生かして取り組む事業などとも広く連携していきます。

イベントは、多彩な交流を生み出す効果、目標や期限を決めて活動を結集する効果、実験的な取組を可能とする効果、活動のPRなど高い情報発信効果、交流人口を増大させる効果などを有しています。

本取組は、地域における絆づくりや、特色ある地域資源を生かして取り組む地域づくりを基本に、多彩な催しを展開することにより、地域の魅力や価値を向上させ、発信するとともに、集客交流の拡大を図り、その後の自立・持続可能で元気な地域づくりへとつなげていこうとするものです。そのため、県民力拡大プロジェクトのみならず、取組の企画・準備から、交流・連携の過程、活動の発表、事後の評価、成果の継承を含む一連の取組すべてをイベントととらえます。

イベント手法を活用しつつ、継続的な地域振興に役立てていく工夫をしながら、新たなイベントスタイルによる県民力の結集と成果の情報発信を進めていきます。

また、地域や団体、行政などが特色ある地域資源を生かして行っている事業、あるいは、今後取り組む事業などとも広く連携し、相乗効果を発揮していきます。

- * 「イベント手法」：企画から準備・ネットワーク化の過程、活動の発表、評価、その後の成果の継承に至る一連のプロセスを「取組」ととらえ、イベントの持つ一体感を醸成し、ネットワーク化を進め、情報発信力を高める効果を活用して、事業を単独でもしくは連続して展開していくこと。

(3) 取組の構成

① 地域での美し国おこし

- 平成 26 年の「美し国おこし・三重」の取組終了後も、参画した住民の皆さんが主体的に地域づくりを継続していけるよう、地域の連携や、経済的な循環の仕組みづくりを進めていきます。
- 地域について学び、地域の課題や将来の展望を語り合う「座談会」や「美し国おこし・三重」の取組に参画する「パートナーグループ」などの仕組みと、その活動を継続的に支える方策や制度の確立を進めていきます。
- 「美し国おこし・三重」に関わる皆さんが一堂に会する成果発表や交流の場を設け、情報共有やモチベーションの向上などを図ることで、次年度以降の取組の拡大・発展につなげていきます。

② テーマに基づき全県的に取り組む美し国おこし

- 県内各地域のパートナーグループの活動の中から共通する分野の活動を連携し、「テーマに基づき全県的に取り組む美し国おこし」として全県的・広域的な取組を推進します。
- 企画段階から各市町やパートナーグループ、関連民間企業、専門家などの参画を呼びかけます。
- 県内の民間企業が主体的に取り組む社会貢献活動などとの連携によって、事業の推進力を向上していきます。

③ 節目に行う効果的な地域での美し国おこし * 【 】内は実施年度

- 「美し国おこし・三重」オープニング【H21】
- 県民力拡大プロジェクト【H26】
 - 縁博みえ2014（基本計画記載名：「こころめぐる三重2014（仮称）」）
 - 三重県民大縁会（基本計画記載名：「三重県アクティブシチズンふれあいの会（仮称）」）
 - 第32回地域づくり団体全国研修交流会三重大会（基本計画記載名：会議・シンポジウムなどの誘致）

(4) 地域づくりの担い手の育成と支援

(基本的な考え方)

パートナーグループとの個別相談や意見交換を行う個別支援座談会を通じて、パートナーグループの自立性・持続性を高めるために必要な活動の内容を整理し、

グループ内の共有を図り、活動していくための課題を明確にするとともに、その解決方法・スケジュールを提示し、支援します。

具体的には、実行委員会の支援メニューのほか、行政、各種団体などの地域づくりを促進するためのさまざまなメニューも有効に活用することにより、相乗効果を発揮していくとともに、既存の中間支援組織などと連携しながら実施します。

(支援メニュー)

地域における取組を促進するため、専門家の派遣などの人的支援や財政的支援など、次のような支援を行います。

- 研修【人材（地域づくりのリーダー）の育成】
- 専門家派遣
- 広報・誘客支援
- ネットワーク化支援
- 財政的支援

(5) 情報発信

(基本的な考え方)

「美し国おこし・三重」の最終年に向けて、イベント手法を活用しながら取組を展開し、幅広く取組への参加・参画を呼びかけていくための周知、交流・連携の拡大につながる活動情報や成果の発信、県民力拡大プロジェクトなど節目における参加・交流者数の増大につなげる宣伝など、取組内容に応じた、より効果的な情報発信を次の観点から行います。

- 「美し国おこし・三重」の取組全体についての情報発信
- 個々のパートナーグループの活動についての情報発信

「美し国おこし・三重」の取組実績

4 地域での美し国おこし（地域づくりの担い手の育成と支援）の取組実績

地域をよりよくしていこうとする住民の皆さんの活動をサポートするため、座談会の開催やパートナーグループ登録を進め、プロデューサーの助言や専門家派遣、広報・誘客支援、ネットワーク化支援、財政的支援などを行いました。

（1）座談会の開催

「地域づくりに取り組んでいる」または「これから始めようとする」住民の皆さんなど、地域をよりよくしていこうという思いを持つ住民の皆さんが集まり、地域の課題やビジョンを話し合う場である座談会、説明会等を市町と調整の上、平成 21 年度～26 年度までの取組の期間（以下「取組期間」という。）内に 3,810 回開催しました。

（座談会の開催方針）

- 地域づくりグループ、リーダーの発掘
 - ・ 地域事務所職員が市町と連携し、地域づくりグループやリーダーの発掘をめざして、「美し国おこし・三重」の取組全般の説明を行うなど、その後の座談会の開催やプロデューサーによる面談につなげます。
- 交流・連携の促進
 - ・ 「拡大座談会」や「ご縁づくり交流会」を積極的に開催し、パートナーグループをはじめ地域づくりに取り組むグループ・団体間の交流・連携の輪を広げ、それらの活動から気づきを得て、その後の活動の活性化につなげます。

（座談会の開催方法）

- 座談会
 - ・ 地域をよりよくしていこうという思いを持つ皆さんが集まる場として、市町ごとの公募による座談会や「業種別」、「活動領域別」など具体的な活動内容に絞った座談会を開催し、それぞれの活動をより深め高めていく機会とします。
- 拡大座談会、ご縁づくり交流会
 - ・ パートナーグループをはじめ地域づくりに取り組むグループ間の交流・連携の輪を広げ、その後の活動の活性化につなげていくため、複数のパートナーグループや県民の皆さんが気軽かつ自由に参加できる場として開催します。
- 個別座談会
 - ・ 個別のグループを支援するため、プロデューサーがグループと活動について意見交換・相談を行います。

●意見交換会・説明会

・既存の活動グループだけでなく、「これから活動を始めよう」、「これを契機に何か考えてみよう」など、新たに地域づくりを始めようとする個人や団体、また住民による自治組織等の参画を呼びかけるための場として開催します。

(表 4-1) 年度別 座談会開催数

(単位:回)

年度	座談会	個別座談会	説明会等	合計
H20(1~3月)	11	0	7	18
H21	67	457	75	599
H22	17	457	133	607
H23	27	490	71	588
H24	27	555	133	715
H25	36	586	154	776
H26	33	344	130	507
計	218	2,889	703	3,810

※ 座談会には、拡大座談会等を含みます。



各地域で開催された座談会では、地域の課題やグループの活動手法などについて、プロデューサーを交えた意見交換が行われました。

～「美し国おこし・三重」プロデューサーの皆さん～

プロデューサーがサポート!

皆さんの地域への思いを引き出し、課題解決に向けて一緒に考えます。



※平成 25・26 年度プロデューサー

* 「美し国おこし・三重」プロデュース業務は、以下の事業者へ委託し実施しました。

(H21 年度～26 年度) ・有限会社 Landa Associates

(H24 年度～26 年度) ・特定非営利活動法人 市民社会研究所 (四日市地域)

- ・特定非営利活動法人 津市 NPO サポートセンター (津地域) *H24 年度のみ
- ・特定非営利活動法人 Mブリッジ (松阪地域)
- ・特定非営利活動法人 いせコンビニネット (伊勢志摩地域)

(2) パートナーグループの登録

「美し国おこし・三重」の取組の趣旨に沿って、自発的に地域をよりよくしていこうとする活動を行うパートナーグループに、さまざまな分野から取組期間内に 743 グループが登録しました。

(登録要件)

● 構成員要件

- ・ 18 歳以上の者が、2 人以上参画するグループであること
- ・ 代表者が 18 歳以上の者であること
- ・ 取組の趣旨に沿った企業や団体 (行政含む) の構成員も個人の資格で構成員として参加可能であること。既存の NPO や自治会など、住民により構成されるグループについても対象となること

- ・構成員（代表者を含む。）のうち、三重県在住者・在勤者・在学者が 50% 以上であること

- ・代表者が三重県内に住所を有すること

●団体要件

- ・「美し国おこし・三重」の趣旨に沿った活動を行う企業や団体（行政含む）の構成員が参画する場合は、個人の資格で参画していること

- ・「美し国おこし・三重」の趣旨に沿った活動を行う既存の N P O や自治会など、住民により構成されるグループについても対象となること

●活動エリア要件

- ・グループの本拠地が三重県内にあること

- ・グループの主たる活動エリアが三重県内であること

●活動内容要件

- ・特定の個人、企業等の営利のみを追求するのではなく、社会的利益や社会への還元が認められるものであること

(表 4-2) 年度別・地域別 パートナーグループ登録数推移

地域事務所	H21	H22	H23	H24	H25	H26	登録 累計	廃止 取消数	累計
桑 名	13	6	11	15	20	7	72		72
四日市	14	25	16	27	27	11	120	3	117
鈴 鹿	17	13	4	26	27	16	103		103
津	5	10	9	24	32	5	85	1	84
松 阪	22	13	4	19	13	10	81	2	79
伊 勢	32	22	22	20	25	8	129	2	127
伊 賀	11	8	3	13	10	4	49		49
尾 鷲	25	9	8	17	7	4	70	1	69
熊 野	14	4	2	14	9	2	45	2	43
合 計	153	110	79	175	170	67	754	11	743

(表 4-3) 分野別 パートナーグループ登録数

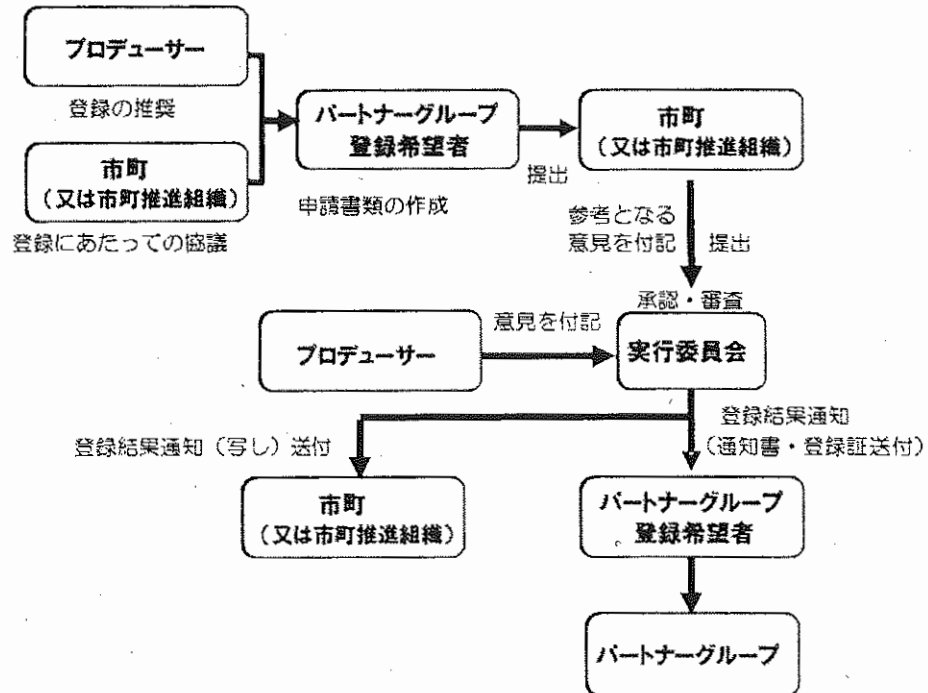
活動分野	登録数	活動分野	登録数	活動分野	登録数
食	287	観光振興	284	スポーツ	67
環境保全	225	文化	282	医療	45
景観形成	121	教育	296	福祉	217
森づくり	89	防災	57	総合的なまちづくり	341
海づくり	57	保健	19	祭り・イベント	381
産業振興	239	健康	156	その他	125

※パートナーグループの分野は複数分野にわたるため、重複して計上しています。

(パートナーグループの登録フロー)

- a) 構成員要件登録に際しては、活動の目的や内容等について確認するため、原則として事前に地域担当プロデューサーまたは総合プロデューサーに面談を行います。
- b) 登録申請書をグループの主たる活動エリアが存する市町の「美し国おこし・三重」担当窓口へ提出します。
- c) 市町の意見を付記し、実行委員会へ登録申請書を送付します。
- d) 地域担当プロデューサーまたは総合プロデューサーの意見の付記を経て、実行委員会事務局において、登録要件が具備されているか確認を行います。
- e) 登録証を発行します。

(図 4-1) パートナーグループ登録フロー図



(3) 拡大座談会、ご縁づくり交流会等の開催

市町単位や実行委員会事務局地域事務所単位など、地域や活動分野を越えた連携・交流のきっかけづくりや「美し国おこし・三重」の取組をアピールするための拡大座談会、ご縁づくり交流会等を、取組期間内に県内136か所で開催し、延べ13,205人の参加がありました。

(表4-4) 年度別 拡大座談会等の開催数および参加者数

(単位:回、人)

年度	拡大座談会	参加者数	「対話する」大会	参加者数	ご縁づくり交流会	参加者数	開催数合計	参加者数合計
H20	1	100					1	100
H21	7	319	5	421			12	740
H22	5	430					5	430
H23	22	1,234					22	1,234
H24	27	1,788					27	1,788
H25	36	2,431					36	2,431
H26					33	6,482	33	6,482
計	98	6,302	5	421	33	6,482	136	13,205

* 「対話する」大会は、オープニングの取組として地域や分野を越えた広域的な情報共有やネットワークづくり、課題解決のきっかけづくりを目的として県内5地域で開催したものです。

(拡大座談会の参考事例)

<参考事例1>
桑員地域拡大座談会
「いたみを糧に地域の『新たな未来』の話しをしよう vol. 3」
 (平成23年6月17日・北勢市民会館さくらホール)

平成23年3月11日に発生した東日本大震災に対し、三重県内でも募金活動や支援物資の提供などの活動が行われ、人と人とのつながりや絆、コミュニティの重要性が問い直されています。

「いたみを糧に地域の『新たな未来』の話しをしよう」をテーマとしたシリーズの3回目となる桑員地域拡大座談会では、貨幣を通さず、交換から生まれる人とのつながりやあたたかさを体感できる「物々交換」実験イベント「xChange (エクスチェンジ)」の主宰者である丹羽順子さんの講演と、「新たな未来」を語るワークショップが開催されました。



<参考事例2>

尾鷲市・紀北町拡大座談会

「地域資源はみんなの宝物。より愛される仕組みを考えよう！地域資源のほりおこし～デザイン～情報発信」

(紀北会場：平成23年10月4日・ゆうがく邸、
尾鷲会場：" 10月12日・天満荘)

尾鷲市・紀北町が有する地域資源を、「より魅力に情報発信する、デザインするにはどうしたらよいか」をテーマに、パートナーグループの活動や地域の「宝物」の紹介を交えながら、デザイナーを迎えてワークショップを実施しました。併せて「ワイワイ交流会」を開催し、グループの交流・連携を図りました。



<参考事例3>

鈴鹿地域拡大座談会

第2回 食と農でつながる拡大座談会

(平成24年10月2日・コミュニティプラザ「鈴峰の里」& Sakura-cafe)

鈴鹿市鈴峰地区をはじめとして鈴鹿地域では、多品種の野菜の栽培や、加工品の製造、農業体験の実施など農業の6次化に向けた取組が展開されており、農業のブランド化や農家間のネットワークを活かした販路開拓が課題となっています。

そこで、多品種の野菜を栽培し、多角的な直売所の経営を行う農業者によるセミナーを実施し、そのブランディングやマーケティングの手法を学ぶとともに、ワークショップ形式による意見交換会によりネットワークづくりを進めました。



<参考事例4>

松阪地域ご縁づくり交流会

松阪大縁会

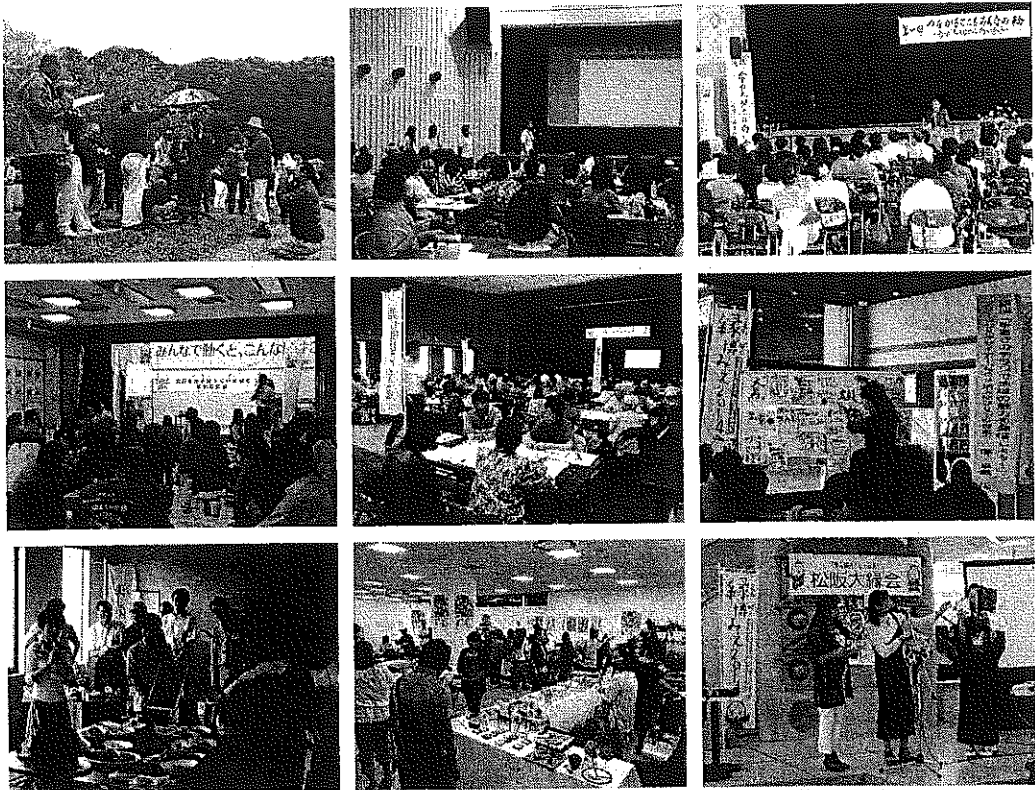
(平成26年9月7日・松阪ショッピングセンター マーム)

『みんなで地域を元気に!!』を合い言葉に、松阪市内のパートナーグループが一堂に集い、それぞれの活動を展示・販売、ステージ発表等の形でPRする場として、「松阪大縁会」を開催しました。

「地域の魅力の見つけ方」をテーマにトークライブを行ったほか、松阪市のマスコットキャラクター「ちゃちゃも」、「ウレッピー」、「たけちゃん」、「美し国おこし・三重」マスコットキャラクター「うーまちゃん」も登場し、参加者や出展者と楽しく交流しました。



県内各地域で開催した拡大座談会やご縁づくり交流会



拡大座談会等では、ワールドカフェ方式による意見交換やフィールドワークを実施しました。

*「ワールドカフェ方式」：“カフェ”にいるようなリラックスした雰囲気のなか、参加者が少人数に分かれたテーブルで自由に対話を行い、テーブルとメンバーを入れ替えながら話し合いを発展させていく手法。

(4) サポートメニューによる活動支援

パートナーグループの自立性・継続性を高めるため、以下のサポートメニューにより、活動を支援しました。

(サポートメニュー)

- ①研修【人材（地域づくり……研修やプロデューサーからのアドバイスなど、地域のリーダー）の育成】 ……地域づくりのリーダーを育成します。
- ②専門家派遣 ……パートナーグループの活動を活性化し、課題を解決するため、パートナーグループの要請に基づき、ふさわしい専門家を派遣します。
- ③広報・誘客支援 ……パートナーグループの活動内容やイベント情報の広報・誘客をお手伝いします。
- ④ネットワーク化支援 ……地域や分野を越えたパートナーグループや団体、企業、サポーターとのネットワークづくりを進めます。
- ⑤財政的支援 ……プロジェクト認定を受けたパートナーグループに対し、市町の考え方に沿って初期投資部分を市町とともに支援します。

*プロジェクト認定とは、パートナーグループが新たに作成する事業計画によって自立・持続化が図られると「美し国おこし・三重」実行委員会が認めることを指します。

① 研修【人材（地域づくりのリーダー）の育成】

パートナーグループが活動するうえで共通の課題となっている「ファシリテーション」「広報・情報発信」「マネジメント」に関する研修の開催や、パートナーグループ活動に対するプロデューサーからのアドバイスなどを通じて、地域づくりリーダーを育成しました。

（主な研修のメニュー）

●ファシリテーション研修【H21～23年度】

・異なる立場や考え方を持つ人たちの話し合いの場で、対話をとおして発想を膨らませたり、全員のアイデアを統合して新たな知恵を生み出したりする「場づくり」のスキルや「進行役」としての心構えを持った人材を育成する研修です。

●広報・情報発信研修【H21～23年度】

・自分たちのグループ活動を広報・情報発信することにより、仲間を増やしたり、多くの人から支援を得たりするための情報発信力を高める研修です。

●マネジメント研修【H23・24年度】

・活動資金の獲得に向けた企業の社会貢献活動との連携や賛同者・出資者の確保、さまざまな融資制度や助成制度の活用、組織運営など、活動を継続させるためのノウハウを高める研修です。

（表 4-5）年度別・テーマ別 研修開催数

（単位：回、人）

年度	ファシリテーション研修	参加者数	広報・情報発信研修	参加者数	マネジメント研修	参加者数	開催数合計
H21	3 (四日市、津、伊勢)	52	3 (桑名、伊賀、尾鷲)	51			6
H22	3 (鈴鹿、松阪、熊野)	45	3 (四日市、津、伊勢)	37			6
H23	3 (桑名、伊賀、尾鷲)	39	3 (鈴鹿、松阪、熊野)	30	2 (四日市、松阪)	55	8
H24					3 (鈴鹿、伊賀、尾鷲)	96	3
計	9	136	9	118	5	151	23

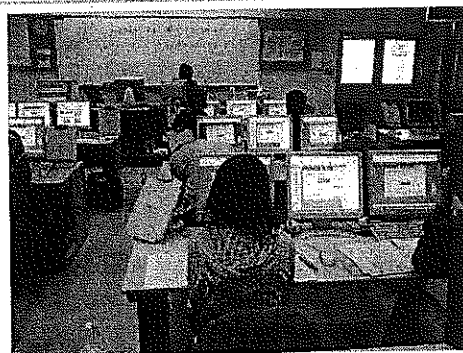


<参考事例1>

ファシリテーション研修（熊野会場）

（平成22年7月2～3日・三重県熊野庁舎）

「聴き手」や「話し手」の会話内容を模造紙に書く「ファシリテーショングラフィック」の手法を体験するとともに、模擬座談会を実施し、参加者がそれぞれファシリテーター、ファシリテーショングラフィカー、参加者、観察者の役目を担い、基本的なスキルを身につけるための実践的な技術を学びました。



<参考事例2>

広報・情報発信研修（松阪会場）

（平成22年7月17日ほか全3回・松阪商業高校）

「広報の必要性を学ぶ」「ホームページ、チラシの特性を学ぶ」「映像制作の基本を学ぶ」の全3回の研修として、新聞社の記者を交えたプレスリリースの作成、ホームページやチラシのデザイン制作、映像制作とインターネット（YouTube）へ掲載手法等を学びました。



<参考事例3>

マネジメント研修（鈴鹿会場）

（平成24年9月12日・三重県鈴鹿庁舎）

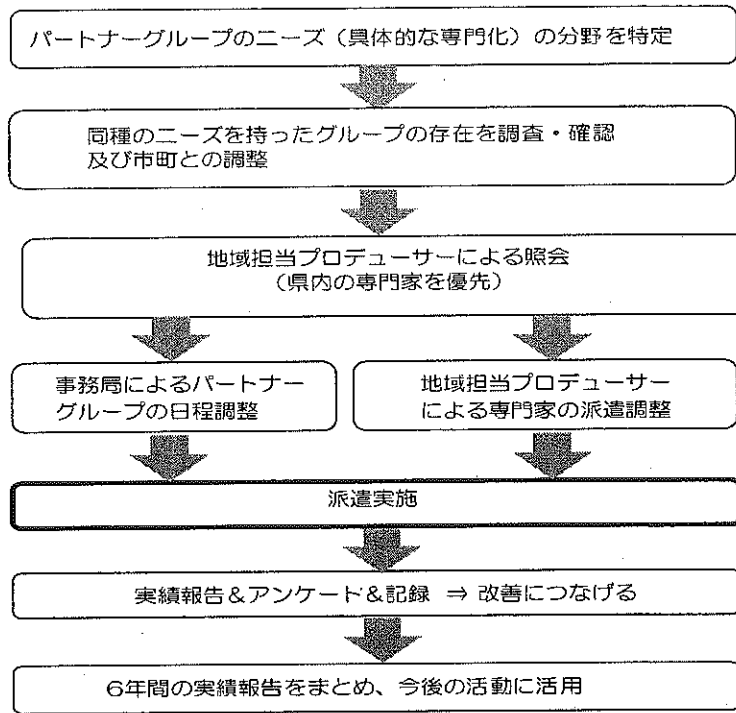
「地域のために好きなことをずっと続けていくための組織のこと、資金のこと」をテーマに、NPOバンクを運営する「コミュニティ・ユース・バンク momo 代表理事」を講師に、地域づくり活動における運営資金の考え方や活動資金の融資を受けるための基礎知識、手法を学びました。

② 専門家派遣

パートナーグループの活動を活性化し、課題の解決を支援するため、パートナーグループの要請に基づき、プロデューサーと協議の上、取組期間内に、115件（289回（日数））の専門家派遣を実施しました。

派遣を行った専門家の分野は、情報発信（ホームページの制作指導）、商品開発（特産品のブランディング）、デザイン（チラシやイラストマップ、ロゴマークの作成指導）、まちづくり（地域づくり活動の運営手法）、交流（子どもたちとの接し方の指導など）など多岐におよび、パートナーグループの具体的な課題やニーズに対応した専門家派遣により活動のスキルアップにつなげました。

(図 4-2) 専門家派遣のフロー図



(表 4-6) 年度別 専門家派遣件数及び回数

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	計
件数	9	15	18	25	22	26	115
延べ回(日)数	16	32	45	65	60	71	289



<参考事例1>

参宮ブランド『擬革紙』の会

(平成 22 年 11 月 25～26 日・玉城町 奥書院ほか)

「擬革紙」の復活に必要な「絞り」の技術を習得するため、小山市指定無形文化財下野しぼり技術保持者 諏訪 ちひろ氏を迎えて、和紙絞りの工程を具体的に実演・指導いただきました。



<参考事例2>

ささらくらぶ

(平成 23 年 7 月 21 日ほか、全 5 回・ささらくらぶ事務所)

鈴鹿市の特産品である「かぶせ茶」のブランド化を目指した PR を推進するため、デザイナー 倉田 史佳氏(デザイン事務所 プン・グラフィックス)を迎えて、マーケティング戦略を再考するとともに、その戦略に応じたパッケージデザインの制作指導をいただきました。



<参考事例3>

NPO法人 天満浦百人会

(平成24年4月13日ほか、全3回・天満荘)

地域の食材を活かしたオリジナルメニューを開発するため、パートナーグループ「みえの食と産業推進協議会」の協力を得て、奥村 仁氏(学校法人古川学園 副校長・元四日市都ホテル総料理長)を迎え、天満浦特産の甘夏を使ったスイーツのレシピ開発の指導をいただきました。



<参考事例4>

NPO法人 a trio

(平成24年10月11日ほか、全5回・a trio 事務所)

ホームページによる活動の情報発信力を高めるため、webデザイナー 近藤 武氏(近藤武デザイン事務所)を迎えて、フェイスブックと連動したホームページの運用など、既存のホームページを再活用したより効果的な情報発信手法を指導いただきました。



<参考事例5>

飯Ne!!

(平成25年1月26日・松阪市飯高老人福祉センター)

親子イベントや子育ての勉強会の運営に必要な「コーチング」(言語コミュニケーションスキル)と「ケアリングタッチ」(非言語コミュニケーションスキル)のスキルを学ぶため、専門家 津田 紘彰氏(国際コーチ協会認定校コーチングアカデミー名古屋校講師)を迎えて講義・指導を受けました。



<参考事例6>

松阪木綿手織り工房 織らんせ

(平成25年10月7日ほか、全3回・織らんせ 工房)

手織り松阪木綿の商品のブランド力を高め、特産品として全国に発信するため、ブランディングのノウハウを有する中村 純氏(株)SUNKI Branding 代表取締役)を迎えて、コンセプトづくり、ロゴ作成、商品づくり等のアドバイスを受けました。

③ 広報・誘客支援

※詳細は「8 情報発信の取組実績」(74ページ)に記述

④ ネットワーク化支援

パートナーグループをはじめ地域づくりに取り組むグループ間の交流・連携の輪を広げ、その後の活動の活性化につなげる場づくりなどを行いました。

ア) 拡大座談会、ご縁づくり交流会

※「(3) 拡大座談会、ご縁づくり交流会等の開催」(28 ページ) に記述

イ) 成果発表・交流会、プレ三重県民大縁会、三重県民大縁会

※「6 節目に行う効果的な情報発信の取組実績」(50 ページ) に記述

ウ) 「美し国おこし・三重」サポーターズクラブ

「美し国おこし・三重」の取組の趣旨に賛同し、取組のPRやパートナーグループの活動を応援していただける県内外の個人、団体、企業等を対象に、平成 21 年10月に「美し国おこし・三重」サポーターズクラブを設置し、取組期間内に 193 人、145 団体の登録をいただきました。

登録いただいたサポーターの皆さんには、「成果発表・交流会」や「三重県民大縁会」等での当日の運営サポートのほか、情報発信などの支援をいただきました。

(表 4-7) 年度別 サポーターズクラブ登録数

(単位: 件)

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	計	廃止等	合計
個人	66	58	26	26	17	2	195	2	193
団体	12	38	20	34	38	4	146	1	145
計	78	96	46	60	55	6	341	3	338



サポーターズクラブの活動(「プレ三重県民大縁会」でのアンケートの実施、キッズコーナーの運営)
 (右) 三重県の新規採用職員有志により結成された「三重県庁う～まちゃん部」もサポーターズクラブに登録し、ご当地アイドルとともに「縁博みえ2014」のPRキャラバンに参加しました。

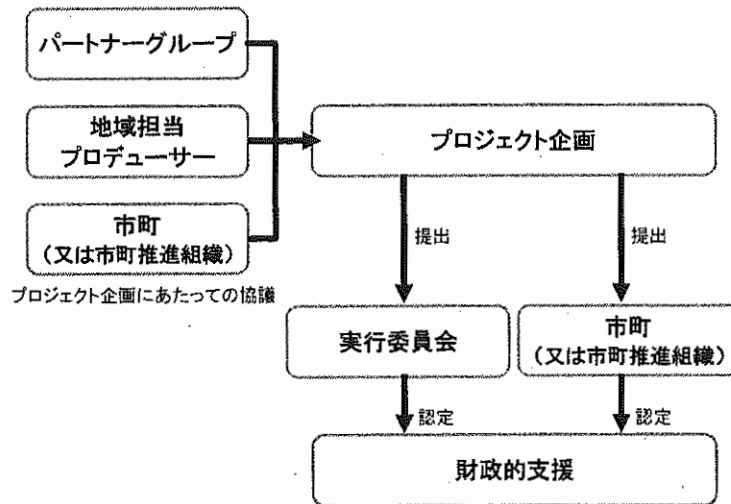
⑤ 財政的支援

パートナーグループが行う、認定されたプロジェクトに対する初期投資に要する経費を1回に限り支援することとし、取組期間内に、36件の財政的支援を実施しました。

なお、支援にあたっては、「美し国おこし・三重」の趣旨に沿った、新たな取組もしくは既存の取組でバージョンアップする部分など、「自立性」、「持続性」、「成長性」などがあるものを対象としました。

また、市町を含む地域のさまざまな主体が参画する実行委員会などによる取組についても支援することとし、複数の市町からなる広域の取組も対象としました。

(図 4-3) プロジェクト企画の作成から認定、支援実施までのフロー図



* 「市町推進組織」：市町が、当該市町区域又は複数市町に跨る地域において、住民、地域づくり団体、企業等の地域の多様な主体と協働して、「美し国おこし・三重」の趣旨に沿った取組を行うために設立した団体。

ア) パートナーグループに対する財政的支援

パートナーグループの活動の持続性を高め、地域に貢献しながら安定した活動が行えるよう、グループの活動の自立・持続性を高める取組としてプロジェクト認定されたプロジェクトに係る初期投資に対して支援しました。

また、市町を含む地域のさまざまな主体が参画する実行委員会などによる新たな取組、もしくは既存の取組でバージョンアップする部分に対して支援しました。

(財政的支援の仕組み)

・ 支援は原則1回限りとします。

● 補助限度額・交付率

a) 補助限度額

・ 補助対象事業費の限度額は、1,200千円以内とし、1,200千円を超えた部分については、パートナーグループが全額負担するものとします。

b) 交付率

- ・実行委員会、市町、パートナーグループの負担割合は次のとおりとし、実行委員会は、市町支援額と同額以内（過疎地域等の場合を除く。）を支援することとします。（支援の限度額（上限）は500千円）
- ・なお、次の範囲内で、市町が行う地域づくりに対する支援の考え方や実情に応じて個々に限度額等を設けることができることとします。

(表 4-8) 財政的支援の負担割合

区分	金額	負担割合		
		実行委員会	市町	パートナーグループ
通常	600千円以下の部分	1/2	1/2	—
	600千円超～1,200千円の部分	1/3	1/3	1/3
過疎地域等	600千円以下の部分	3/5	2/5	—
	600千円超～1,200千円の部分	7/15	4/15	4/15

* 過疎地域等：過疎地域、準過疎地域、離島地域及び東紀州地域

イ) 市町が参画した実行委員会等に対する財政的支援

市町が重点分野と位置づけ、自立・持続に向けた課題を有するもので、市町を中心として地域のさまざまな主体が参画（パートナーグループの参画を必須とします。）して実行委員会等（以下「市町実行委員会」という。）を構成し、その解決に向けた仕組みづくりを行う取組に対して、財政的支援を行いました。

(財政的支援の仕組み)

- ・既存の市町実行委員会であっても、自立・持続に向けた新たな取組を行おうとする場合や既存の取組を新たな取組にリニューアルする場合も支援対象とします。

●補助限度額・交付率

a) 補助限度額

- ・補助対象事業費の限度額は、5,000千円以内とし、5,000千円を超えた部分については、市町実行委員会が全額負担するものとします。

b) 交付率

- ・実行委員会は、市町実行委員会への市町負担額と同額以内（過疎地域等の場合を除く。）を支援することとし、支援の限度額（上限）は、2,500千円とします。

* 過疎地域等（過疎地域、準過疎地域、離島地域及び東紀州地域）の場合は、実行委員会の負担割合は、市町負担額の $3/2$ 以内、支援の限度額（上限）は、3,000 千円以内とします。

* 過疎地域等とそれ以外の市町が連携して事業を実施する場合（同じ市町内で過疎地域等とそれ以外の地域がともにある場合において、それらの地域間で連携して実施する事業も同様）は、かさ上げ率を半減し、実行委員会の負担割合は、市町負担額の $11/9$ 以内、支援の限度額（上限）は、2,750 千円以内とします。

* 実行委員会に参画するパートナーグループは、同様の取組で、2種類の財政的支援（パートナーグループ支援、市町実行委員会支援）を併用することはできません。

なお、財政的支援にあたってのプロジェクト認定については、パートナーグループに対する財政的支援、市町が参画した実行委員会等への財政的支援とも以下の基準により審査を実施しました。

（プロジェクト認定の審査基準）

- 「自立性」、「持続性」、「成長性」を有する取組であること
- 「県民力による協創の三重づくり」の実践的取組のモデルとなるものであること
- 成果の指標が明確であること
- 既存の取組については、バージョンアップする部分が対象となること

（表 4-9）年度別 財政的支援実施件数および支援額

（単位：件、円）

		H21	H22	H23	H24	H25	H26	計
件数	全県	4	7	6	5	9	5	36
	うちパートナーグループ	4	6	6	3	8	4	31
	うち市町実行委員会	0	1	0	2	1	1	5
支援額 *市町との合計	全県	2,426,570	4,982,547	4,467,110	7,693,140	5,447,395	3,755,824	28,772,586
	うちパートナーグループ	2,426,570	4,148,547	4,467,110	1,378,250	4,111,955	2,987,296	19,519,728
	うち市町実行委員会	0	834,000	0	6,314,890	1,335,440	768,528	9,252,858

	<p><参考事例1> 手づくり工房・ワイワイ（平成21年度・紀北町） 「ワイワイオリジナル・さかなグッズ開発プロジェクト」</p> <p>ミシン等の購入により、紀北町の新しい商品としてサカナにこだわった収益性の高いオリジナルグッズ「カツオの抱き枕」を開発・生産に結びつけ、町外にPRすることができるようになりました。</p>
	<p><参考事例2> 亀山みそ焼きうどん本舗（平成22年度・亀山市） 「亀山みそ焼きうどん本舗」</p> <p>みそ焼きうどんの調理器具やマスコットキャラクターの着ぐるみの購入により、「亀山みそ焼きうどん」のPR・販売の拡大につなげ、亀山のB級グルメとして定着させるとともに、B-1グランプリの出場を果たしました。</p>
	<p><参考事例3> 元丈の里 営農組合（平成22年度・多気町） 「多気町波多瀬 地域の特色を活かした6次産業化事業」</p> <p>米粉を加工するための高速粉碎器の購入等により、「機能性米粉」の商品開発・生産につなげ、地元産の農産物の生産・加工・販売という6次産業の構造を地域全体で確立するに至りました。</p>
	<p><参考事例4> 熊野街道ひなめぐり実行委員会（平成24年度・熊野市） 「熊野街道ひなめぐり」</p> <p>熊野街道ひなめぐりのイベント会場等に設置するためののぼり旗や顔出しパネルの購入により、街全体のイベントの一体感を生み出すとともに、地域外からの観光客を呼び込み、住民との交流を進めることで、街中に賑わいを取り戻し、地域活性化につなげることができました。</p>
	<p><参考事例5> 神戸地区住民自治協議会産業部会（平成25年度・伊賀市） 「かんべいきいきプロジェクト」</p> <p>「かんべいきいき市」オリジナルのロゴマークによるデザインのテント・のぼり旗などの製作により、「かんべ」という地域ブランドを構築するとともに、隣接地域への産直市の販売機会やファンを増やしたことで、自立した活動と地域の活性化につなげることができました。</p>

5 テーマに基づき全県的に取り組む美し国おこしの取組実績

平成22年度～24年度の3年間、県内各地域のパートナーグループの活動の中から共通する分野の活動を連携し、「テーマに基づき全県的に取り組む美し国おこし」として全県的・広域的な取組を推進しました。

この取組により、県内各地で行政や団体、地域住民等と協働して進めるパートナーグループの活動を、全県的・広域的に分野(テーマ)ごとにネットワーク化し、情報発信することで、それぞれの活動や地域の魅力の発見、地域経済の活性化、地域の担い手づくり、多様な誘客・交流の創出等につなげました。

取組にあたっては、「美し国おこし・三重」基本構想の基本理念に掲げる「人と人、人と地域、人と自然の絆」を基軸に据えて、平成22年度・23年度は「人と自然の絆づくり」、平成23年度・24年度は「人と地域の絆づくり」、平成24年度は「人と人の絆づくり」を理念に、それぞれにテーマおよびキーワードを設定し、年度ごとにこのテーマに沿ったプロジェクトを展開しました。

(3つの理念とテーマ、キーワード)

※【 】内は実施年度

●人と自然の絆づくり【H22・23】

テーマ：「海の命・森の命」

キーワード：「海づくり」「森づくり」「川づくり」「里づくり」「自然の恵み」

●人と地域の絆づくり【H23・24】

テーマ：「地域の誇り・地域の夢」

キーワード：「物語」「街道」「匠の心と技」「風土」

●人と人の絆づくり【H24】

テーマ：「つむぐ想い・つながる心」

キーワード：「通い合い・想いやり」「守り合い・備え合い」「育ち合い・学び合い」

(1) 人と自然の絆づくり ～テーマ「海の命・森の命」～

【平成22年度】

① 自然環境の継続的な保全・再生プロジェクト

社会貢献活動に誰もが楽しめるレジャー活動を組み合わせた新しいボランティアの形であるソーシャルレジャーや、竹に関する研究機関や企業、竹関連パートナーグループなどが集まり、竹の有効活用に関する発表やワークショップを行う「竹メッセ」など、県内各地で6事業を実施しました。

- まるごとソーシャルレジャー発信プロジェクト
- 竹プロジェクト
- 三重の森林と木づかいフェアプロジェクト
- 海づくりプロジェクト

(表 5-1) 自然環境の継続的な保全・再生プロジェクト一覧【H22】

区分	No	事業名	実施主体	事業概要	実施日	参加者 (延べ数)
まるごとソーシャルレジャー発信プロジェクト	1	まるごとソーシャルレジャー発信プロジェクト	「美し国おこし・三重」実行委員会	・「Yahoo! ボランティア」(ホームページ)を活用した情報発信	H22年度	—
	2			・ホームページと連動したソーシャルレジャーPR用チラシの配布		—
竹プロジェクト	1	バンブーエイド「桑西・竹の十三夜」	「美し国おこし・三重」実行委員会 (協力:桑竹会ほか)	・伐採竹の搬出や清掃活動、竹チップによる竹の遊歩道の整備、竹灯笼の設置のほか、イベント「バンブーエイド」の開催	H22.10.20	200
	2	竹メッセin多気～竹が未来を創る～	たき環境くらぶ“竹遊号” 「美し国おこし・三重」実行委員会	・竹に関連した取組や活動を行っているグループ、企業等による発表や出展および交流会の開催	H23.3.6	200
三重の森林と木づかいフェアプロジェクト	1	三重の森林と木づかいフェアプロジェクト	三重県(環境森林部) (共催:「美し国おこし・三重」実行委員会)	・森林づくりに関連するパートナーグループのブース出展やステージ発表を通じた交流・連携の場づくり	H22.10.2	4,400
海づくりプロジェクト	1	第1回みえの海づくりシンポジウム	みえの海づくり実行委員会	・講演、ミニコンサート、ミュージカルのほか、グループの海づくりの活動紹介による交流の場づくり	H22.8.21	100

② 自然の恵みの循環と活用プロジェクト

生ごみや有機資源の堆肥化を進めているグループ、農産物生産者、販売者、消費者をつなぎ、地域単位での「地域リサイクルループ(地域資源のリサイクル循環)」(ぐるぐるアグリ・ネットワーク)をめざした交流会の開催など、県内各地で5事業を実施しました。

- ぐるぐるアグリ・ネットワークプロジェクト
- ぐるぐるアグリ・マーケットプロジェクト

(表 5-2) 自然の恵みの循環と活用プロジェクト一覧【H22】

区分	No	事業名	実施主体	事業概要	実施日	参加者 (延べ数)
ぐるぐるアグリ・ネットワークプロジェクト	1	講演会「地域資源と台所をつなぐ」& 交流会	NPO法人生ごみリサイクル思考の会 (協力:「美し国おこし・三重」実行委員会)	・生ごみリサイクルに係る講演会および交流会(ワールドカフェ方式)の開催	H22.8.22	140
	2	「美し国おこし・三重」活動報告・交流会	「美し国おこし・三重」実行委員会 (共催:三重大学)	・ワークショップ「資源循環のしくみづくりを広めよう!」の開催(活動発表と意見交換)	H22.12.18	583
	3	生ごみリサイクルフォーラムin鳥羽	NPOとばりサイクルネットワーク	・フォーラム(講演・事例発表・分科会・全体討議)を開催。ごみの堆肥化への取組事例の発表および課題等に対する討議の実施	H23.2.4・5	221
ぐるぐるアグリ・マーケットプロジェクト	1	四日市大学学園祭への出展	「美し国おこし・三重」実行委員会	・四日市大学学園祭に大きくすFarm、ぼっかぼかの会などが出展	H22.10.23・24	—
	2	亀山食の祭典への出展	「美し国おこし・三重」実行委員会	・亀山食の祭典にぼっかぼかの会が出展	H22.11.21	—

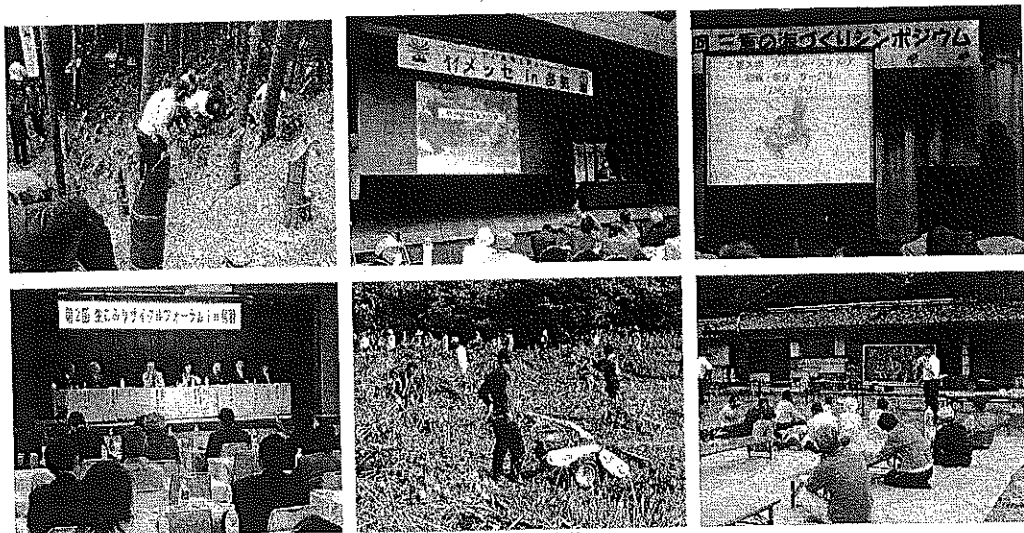
③ 自然の持つ新たな魅力の発見と創造プロジェクト

自然豊かな県南部地域を中心に、自分で目標を設定し課題を乗り越えるための人間力を高める体感プログラムである「チャレンジキャンプ」や、三重の自然のもつ、癒し・健康・精神性等の新たな魅力を発掘・発見する「ココロとカラダの健康ツーリズム」のモニターツアーなど、県内各地で6事業を実施しました。

- 三重南部体験プログラム開発プロジェクト
- ニューツーリズムプロジェクト

(表 5-3) 自然の持つ新たな魅力の発見と創造プロジェクト一覧【H22】

区分	No	事業名	実施主体	事業概要	実施日	参加者 (延べ数)
三重南部体験プログラム開発プロジェクト	1	第1回モニターツアー(チャレンジキャンプ)	どんぐりの会 (共催:「美し国おこし・三重」実行委員会)	・大学生を対象に、荒れた田んぼの復元、地域のごみステーションの製作、大敷網の清掃補修、竹林整備等の体験プログラムの実施	H22.8.11~13	156
	2	第2回モニターツアー(チャレンジキャンプ)	どんぐりの会 (共催:「美し国おこし・三重」実行委員会)	・中学生を対象に、ご飯自炊、お弁当づくり、古道歩き、地域行事への参加等の体験プログラムの実施	H23.1.8~10	40
	3	第3回モニターツアー(チャレンジキャンプ)	どんぐりの会 (共催:「美し国おこし・三重」実行委員会)	・大学生を対象に、里山整備、ご飯自炊等の体験プログラムの実施	H23.2.8~11	35
	4	第4回モニターツアー(チャレンジキャンプ)	どんぐりの会 (共催:「美し国おこし・三重」実行委員会)	・高校生を対象に、荒れた里山の整備等の体験プログラムの実施	H23.3.11~13	40
ニューツーリズムプロジェクト	1	「ココロとカラダの健康ツーリズム」フォーラム・モニターツアー	医食同源みえ (共催:「美し国おこし・三重」実行委員会)	・フォーラム(映画上映会、講演、パネルディスカッション)の開催 ・ヨガ、薬膳料理体験、薬草ウォーキングの開催	H22.10.16・17	70
	2	「ココロとカラダの健康ツーリズム」交流会	医食同源みえ (共催:「美し国おこし・三重」実行委員会)	・モニターツアーの事例紹介および健康ツーリズムに関する意見交換等の交流会の実施	H22.11.14	20



パートナーグループによるテーマプロジェクトの活動
 (上段左・中央)「竹プロジェクト」、(上段右)「海づくりプロジェクト」、
 (下段左から)「ぐるぐるアグリ・ネットワークプロジェクト」、「三重南部体験プログラム開発プロジェクト」、
 「ニューツーリズムプロジェクト」

【平成 23 年度】

① ソーシャルレジャーで三重の自然を守ろうプロジェクト

平成 22 年度に引き続き、「ソーシャルレジャー」の考え方を広め、全県的に展開するため、新たなグループなどに幅広く参加・参画を呼びかけるとともに、企画・実施主体を公募し、県内各地で 14 事業を実施しました。

(表 5-4) ソーシャルレジャーで三重の自然を守ろうプロジェクト一覧【H23】

区分	No	事業名	実施主体	事業概要	実施日	参加者 (延べ数)
ソーシャル レジャーで三重の 自然を守ろうプロ ジェクト (Aタイプ) ※参加者は概ね 100人以上 ※情報発信力を有 すること ※市町村を越えて 広域的に連携して 実施する事業 ※ソーシャル レジャーのモデルと なる事業	1	天然食材を楽しむ会	天然食材を楽しむ会 【代表PG】 天然食材農園二十一世紀 【関連団体】 三重を元気にしよう会(PG)	・耕作放棄地の草刈りと地元食材による料理を組み合わせたソーシャルレジャーの実施	H23.9.18、 12.4	95
	2	ホテルの川づくりプロジェクト	三重ホテルネットワーク準備事務局 【代表PG】 豊田ホテルを育てよう会 【関連団体】 祝詞川ホテル愛好会(PG) 熊野宮川を守る会(PG)		H23.10.8 H24.1.22	93
	3	海フェスと海を守る市民みんなのプロ ジェクト	海づくり会議みえ 【代表PG】 四日市ウミガメ保存会 【関連団体】 にじいろ堂(PG) UMI-RYU(PG) 海っ子の森サークル(PG) ほか	・海浜の清掃活動と生物観察会、水産物の料理などを組み合わせたソーシャルレジャーの実施	H23.8.20 ほか全5回	440
	4	世界遺産熊野古道「伊勢路」の美化 活動	日本風景街道「伊勢熊野みち」推進 協議会と古道保全グループ 【代表PG】 交流空間みやま 【関連団体】 熊野川体感塾(PG) 諸(PG) ほか	・清掃活動、植樹などの景観保全と川舟体験や地元食材の料理などを組み合わせたソーシャルレジャーを実施	H23.8.28 ほか全6回	270
ソーシャル レジャーで三重の 自然を守ろうプロ ジェクト (Bタイプ) ※ソーシャル レジャーのモデルと なる事業、もしくは 可能性がある事業	1	町内の清掃活動・地域住民相互の助け 合い事業	特定非営利活動法人 地域お助けネット	・地域の清掃活動と子どもたちへのお楽しみ提供とを組み合わせたソーシャルレジャーを実施	H23.8.21	280
	2	タケカフェ「竹の都」ごみゼロ収穫祭& リサイクルバザー	「竹の都・明和」農業生産研究会	・生ゴミ、間伐竹などを堆肥としてリサイクルする活動とごんこやくいもの収穫、ごんこやくづくりを組み合わせたソーシャルレジャーの実施	H23.10.8	150
	3	牛草山へのリフレッシュ登山	牛草山を守る会	・清掃などの景観保全活動と地元食材の提供、森林浴による心身の健康増進を組み合わせたソーシャルレジャーの実施	H23.10.29	40
	4	鏡子川を日本の川に！(鏡子川清 掃作業と遊休地開墾)	NPO法人 ふるさと企画舎	・鏡子川の清掃活動や鏡子川沿いの遊休地の開墾と地域の食材を使った昼食を組み合わせたソーシャルレジャーの実施	H23.9.18 ほか全3回	95
	5	木曾岬どろんごサッカー大会	ごたーげさん	・農地等の環境整備とどろんごサッカー、地元食材の昼食を組み合わせたソーシャルレジャーの実施	H23.10.30	30
	6	第2回 桑西・竹の十三夜	桑竹会	・桑名西高校などと連携し、近隣の竹やぶ整備、通学路の清掃と竹灯笼づくり、竹林での演奏会を組み合わせたソーシャルレジャーの実施	H23.10.26	300
	7	地元小学生との地域の里山整備・保 全	三重西里山を愛する会 しりやま倶楽部	・地元の小学校と連携し、地域の里山における竹の伐採、散策路の清掃と里山体験、焼き芋試食を組み合わせたソーシャルレジャーの実施	H23.10.9	100
	8	第1回 新しい竹文化創造フェスティ バル	NPO法人 ういの櫛クラブ	・竹林の整備、竹チップづくりと地元食材の昼食、竹筒細工・榎木鉢の作成を組み合わせたソーシャルレジャーの実施	H23.10.30	50
	9	朝獲れ魚 食べ放題！おわせク リーンBBQ	NPO法人 天満浦百人会	・地域資源である天満荘周辺の環境整備と尾鷲漁港の採れたての魚の食べ放題を組み合わせたソーシャルレジャーの実施	H23.11.23	50
	10	海女のおやつ「きんこ」作り応援隊	特定非営利活動法人 TEAM笑美S	—	中止	—
Cタイプ ※ソーシャル レジャーの事業	1	ホテル川キャンプ in浦谷川	鳥獣屋(仮称 ホテル川を守る会)	・浦谷川の景観の保全をめざし、清掃活動とホテル鑑賞とキャンプとを組み合わせたソーシャルレジャーの実施	H23.7.2・3	10

※PG: パートナーグループ

② チャレンジキャンププロジェクト&ココロとカラダの健康ツーリズムプロジェクト

平成 22 年度に引き続き、「チャレンジキャンプ」と、「ココロとカラダの健康ツーリズム」を広めていくため、それぞれ3つのモニターツアーの企画・実施主体を公募し、県内各地で6事業を実施しました。

(表 5-5) チャレンジキャンププロジェクト&ココロとカラダの健康ツーリズムプロジェクト一覧【H23】

区分	No	事業名	実施主体	事業概要	実施日	参加者 (延べ数)
チャレンジキャンププロジェクト	1	2011チャレンジキャンプ 社会貢献型合宿「あしたのちから」in志摩	社会貢献型合宿を広める会 【代表PG】 どんぐりの会 【関連団体等】 志摩市	・高齢化が進む志摩市の離島「間崎島」において、空家の廃木の伐採や不法投棄ごみの片づけなど行う社会貢献型合宿の実施	H23.8.11~13	191
	2	東紀州の海山川の「くらし」をまるごと体験！親子でチャレンジキャンプ！！	地域プロデュース集団 3side 【代表PG】 地域プロデュース集団3side 【関連団体】 大自然本舗えむてい 尾鷲三木里グリーンツーリズム推進会議	・地場産業である備長炭の炭出し体験、尾鷲市三木里地区の林枝での宿泊、三木里ビーチの海岸や林枝の清掃活動を親子で行うチャレンジキャンプの実施	H23.8.27・28	9
	3	学び、体験、満喫！！日本の里山満喫ツアーin多気町	環境再生体験ツアーの会 【代表PG】 たき環境くらぶ“竹遊号” 【関連団体】 多気観光社(PG)	・竹林整備や里山再生の必要性に関するレクチャーを組み入れたプログラムの実施	H24.1.21・22	33
ココロとカラダの健康ツーリズムプロジェクト	1	宇賀溪 大人のキャンプ -満天の星空のもと「森と対話」する-	宇賀溪・森のオトモダチ 【代表PG】 シズカナオニフ 【関連団体】 森のオトモダチ ゆうき農園	・宇賀溪での森の案内人によるワークショップやキャンプ体験	H23.10.1・2	8
	2	多気ココロとカラダの健康ウォーキング	多気ココロとカラダネットワーク 【代表PG】 多気観光社 【関連団体】 元丈の里 営農組合(PG) 柳川原製茶 樹万協製薬 奥伊勢ツーリスト	・元丈の里で薬膳料理や薬草の足湯体験など、多気の地域資源を巡る健康ウォーキングの実施	H23.11.27	25
	3	熊野古道と尾鷲のよいとこ体験ウォーキング	NPO法人 天満浦百人会 【代表PG】 NPO法人 天満浦百人会 【関連団体】 NPO法人海虹路(PG) 熊野古道語り部友の会(PG) おわせふるさとガイドの会(PG) 尾鷲観光物産協会	・熊野古道でのウォーキング、海洋深層水を使用した風呂、尾鷲地域の食を体験するツアーの実施	H23.12.10-11	17



パートナーグループによるテーマプロジェクトの活動

(上段左)「海浜の清掃活動」、(上段中央・右)「ごんべい桜植樹と三反帆乗船体験」

(下段左から)「牛草山へのリフレッシュ登山」、「遊休地開墾」、「親子でチャレンジキャンプ」

(2) 人と地域の絆づくり ～テーマ「地域の誇り・地域の夢」～

【平成 23 年度】

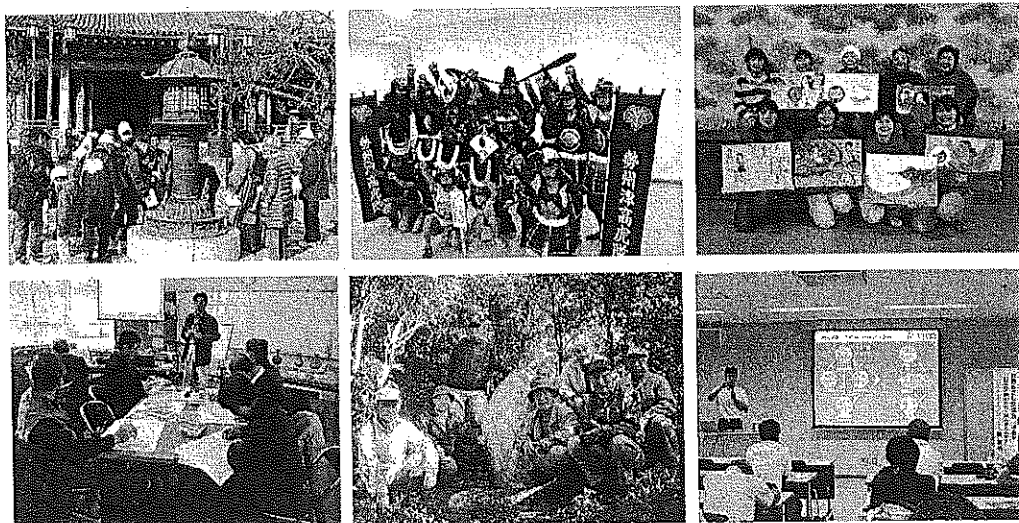
○ 物語おこしプロジェクト

地域にまつわる歴史や逸話・謂われ等の「物語」を活用して、自らの活動を促進するとともに、地域資源の付加価値を高め、元気な地域づくりにつなげていく事業を、「物語おこしプロジェクト」として企画・実施主体を公募し、県内各地で5事業を実施しました。

また、上記の事業に先駆け、実行委員会の主催により「物語おこしプロジェクト」の広報と併せて、地域づくりに取り組む県民の皆さんの交流の場づくりを進める「物語おこし交流会」を開催しました。

(表 5-6) 物語おこしプロジェクト一覧【H23】

区分	No	事業名	実施主体	事業概要	実施日	参加者 (延べ数)
テーマプロジェクトミーティング 及びイベント	1	津を極めるシリーズ 巻の一「阿漕」を極める	安濃津ガイド会、ときめき高虎会	講演「三重県に残る伝説・昔話」の開催 ・「阿漕の平治」の大型紙芝居上演 ・阿漕浦での乗船体験、津市内ウォーキングの実施 等	H24.1.22 3.10	212
	2	「安濃津戦国武将隊」 パフォーマンス事業	安濃津戦国武将隊	・安濃津戦国武将隊イベントパフォーマンスの実施および企画、練習	H24.1.15ほ か全8回	340
	3	「丹敷戸畔の謎」 解明プロジェクト	ISOMON ⁶ 、アンチヨビ・サーデン錦、戸畔の会	・物語等の聞き取り調査の実施および発表 ・講演(3回)、ワークショップの開催 ・紙芝居の製作、発表 等	H23.12.17 ほか全4回	205
	4	身近な歴史の道 「八風街道」物語制作事業	八風街道物語協議会	・地域の取材および発表 ・ゲストスピーチ(7回)による講義の実施 等	H23.11.27 ほか全11回	310
	5	宮川・一之瀬川流域 「物語おこし」プロジェクト	度会町地域資源を守る会	・地域資源調査の実施および発表 ・講義(3回)及び度会町内のツアーの実施 等	H23.12.16 ほか全3回	70
実行委員会主催事業	1	物語おこし交流会	「美し国おこし・三重」実行委員会	・高橋修一郎氏講演会「科学・技術と人材育成により地域を活性化する」	H23.9.17	—
	2	物語おこし交流会	「美し国おこし・三重」実行委員会	・泉英明氏講演会「OSAKA旅めがね・ほんまもの大阪ツアー」	H23.9.27	—
	3	物語おこし交流会	「美し国おこし・三重」実行委員会	・坂元英俊氏講演会「スローな阿蘇づくり・阿蘇ゆるっと博」	H23.10.2	—



パートナーグループによるテーマプロジェクトの活動

(上段左から)「津を極めるウォーキング」、「安濃津戦国武将隊」、「丹敷戸畔の謎解明プロジェクト」
(下段左から)「八風街道」物語制作、「度会町・地域資源調査」、「物語おこし交流会」

【平成 24 年度】

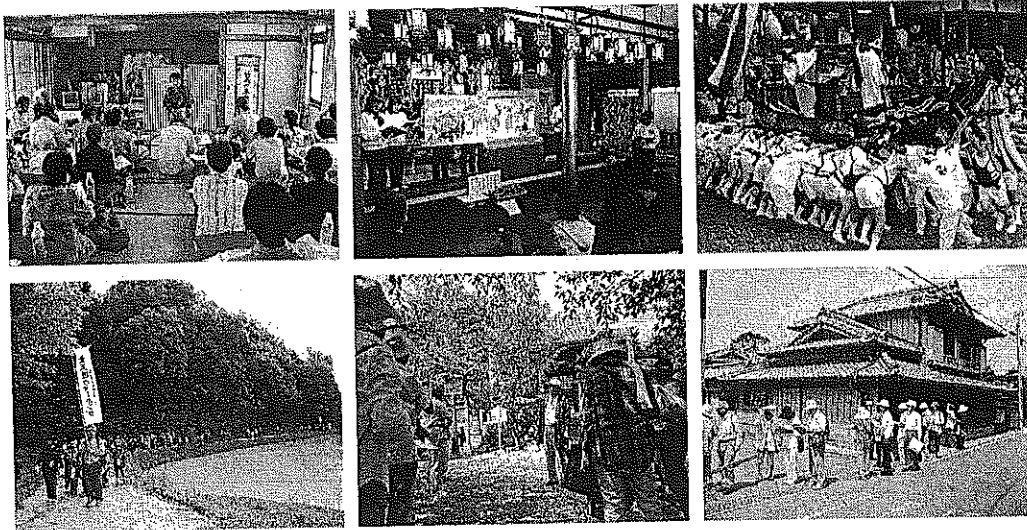
○ 物語おこしプロジェクト

平成 23 年度に引き続き、「物語おこしプロジェクト」の企画・実施主体を公募し、県内各地で 5 事業を実施したほか、パートナーグループが主催する 8 事業を共催事業として実施しました。

また、主催事業としてテーマに沿った講演会を開催しました。

(表 5-7) 物語おこしプロジェクト一覧【H24】

区分	No	事業名	実施主体	事業概要	実施日	参加者 (延べ数)
企画提案事業	1	民話でめぐる菰野ぐるり (東海民話フォーラム)	菰野民話語りの会	・菰野地区での民話・歴史ウォーキング、講演会、交流会、民話の夜話りの開催	H24.12.2	196
	2	「美し国・三重」の物語おこし 紙芝居キャラバン隊	鈴鹿不断桜グループ	・慶光院様の物語や紀宝町の伝説を題材にした紙芝居の創作および上演	H24.11.11 ほか全3回	120
	3	古地図から見る町家ぶらり探検	伊賀暮らしの文化探検隊	・古地図を手がかりにした伊賀上野城下町の歴史散策の実施	H24.11.10	30
	4	引本ひもときプロジェクト	関船衆	・引本ひもときマップを使ったまち歩きなど、関船をテーマにしたイベントの開催	H24.10.21、 H24.11.11	940
	5	「尾呂志の歳時記」体験イベント(みんなで作らう！未来へ伝える「尾呂志の歳時記」づくりプロジェクト)	尾呂志地区活性化プラン推進委員会	・「尾呂志の歳時記」の製作・発表とまち歩きイベントの開催	H24.12.9	70
地域イベント	1	狂歌に秘められた恋物語	桑名の千羽鶴を広める会	・桑名の千羽鶴の折り方体験など魅力の発信	H24.10.28	130
	2	三重ふるさとウォーク	ふるさと三重を愛する会	・四日市市三重地区の史跡等を巡る清掃エコ・ウォーキングの実施	H24.11.11	130
	3	金王道ウォーキング	金王道ふれあい探訪ウォーキング	・源義朝の家臣、金王丸が駆け抜けた道をたどるウォーキングの実施	H24.11.10	60
	4	津を極めるシリーズ 巻の二「鋳物師辻家」を極める	安濃津ガイド会	・鋳物師、辻越後守家種の様の史跡を訪ねる歴史散策の実施	H24.12.1	28
	5	伊勢街道ウォークと斎宮浪漫まつり	史跡斎宮跡・伊勢街道まちづくり会	・伊勢街道のガイドウォークおよび斎宮浪漫まつりへの参加	H24.10.27	43
	6	丹敷戸畔の謎解明プロジェクト「ぶらっといこか〜！」	ISOMON [®] 、アンチョビ・サーデン錦、戸畔の会	・地元のお年寄りから聞き取った物語を題材にした紙芝居の上演および講演の実施	H24.10.28	28
	7	壬申の乱の道一そして斎宮へー	民話『伊賀・隠史サイエンス舎』	・壬申の乱にまつわる講座および現地バスツアーの実施	H24.10.27	40
	8	天女座神楽	天女座 天女の会	・新創作による「天女神楽」の上演	H24.11.24	80
	9	度会町日向コースで牛草山に登ろう	牛草山を守る会	—	中止	—
実行委員会主催事業	1	荒俣宏講演会～アラマタ流物語おこし～	「美し国おこし・三重」実行委員会	・荒俣宏氏(作家)による物語おこし講演会の開催	H24.11.25	120



パートナーグループによるテーマプロジェクトの活動 (上段左から)「民話でめぐる菰野ぐるり」、「紙芝居キャラバン」、「引本ひもときプロジェクト」 (上段右から)「狂歌に秘められた恋物語」、「津を極めるシリーズ 巻の二「鋳物師辻家」を極める」、「伊勢街道ウォークと斎宮浪漫まつり」

(3) 人と人の絆づくり ～テーマ「つむぐ想い・つながる心」～

【平成 24 年度】

○ 人と人の絆の場づくりプロジェクト

誰もがお互いに支え合い、助け合える環境づくりを進める「人と人の絆の場づくりプロジェクト」の企画・実施主体を公募し、県内各地で5事業を実施したほか、パートナーグループが主催する10事業を共催事業として実施しました。

(表 5-8) 人と人の絆の場づくりプロジェクト一覧【H24】

区分	No	事業名	実施主体	事業概要	実施日	参加者 (延べ数)
企画提案事業	1	子育て支援団体とママとの絆づくり 「三重子育てITフォーラム2012」 facebookを活用しバーチャルな出会い ～実際の交流～より深いつながりへ	特定非営利活動法人 愛ママズIT倶楽部	・子育てに関する講演とフェイスブック活用体験の発表、交流会の開催による出会いの場づくり	H24.12.5	103
	2	太陽の宴2012開催事業 ～市民手づくりの環境・防災・音楽イベントを目的として～	「太陽の宴」実行委員会	・エコ意識、防災意識の向上を図る市民参加型音楽イベントの実施	H24.9.29・30	2,300
	3	漂着ゴミ問題を考える管志島奈佐の 浜海岸清掃とシンポジウム等開催事業	四日市ウミガメ保存会	・東海3県の環境団体、住民による海岸清掃、シンポジウムの開催を「22世紀奈佐の浜プロジェクト」として実施	H24.9.8	400
	4	子ども防災サミット	特定非営利活動法人 災害ボランティアネットワーク鈴鹿	・防災教育に参加した児童から大学生による体験発表会の開催	H25.1.17	45
	5	竹燈夜 -TAKETOYA- キャンドルナイト&イルミネーションin松阪	「竹の都・明和」農業生産研究会	・ *啓発説明会のみ実施(H24.10.1)	中止	-
地域イベント	1	親と子の「ほのほのブレイク」	NPO福祉ネット どんぐり	・障がい児及びその家族を対象にした体験教室の開催など交流の場の提供	H24.8.26	67
	2	磯津環境学校	磯津環境学校	・吉崎海岸に漂着した流木を使ってアート作品を作るワークショップの開催	H24.8.25	14
	3	夏休みクラフト体験	Sakura café プロジェクト	・コミュニティカフェを活用した親子で参加できるアートプログラムの実施	H24.8.3 ほか全8回	116
	4	亀山「駅」サイティングまつり	亀山「駅」サイティングまつり実行委員会	・亀山駅前周辺の活性化を目指した交流イベントの開催	H24.10.14	10,000
	5	第7回海のバリアフリーまつり	特定非営利活動法人 海の達人	・障がい者と健常者の交流を図るマリッジイベントの開催	H24.9.8・9	847
	6	東海・北陸商店街おかみさんサミット IN 松阪	ミズ・ネットワーク松阪	・東海北陸地区のおかみさんによる講演、取組発表、まち歩きなど交流・連携事業の実施	H24.9.5	120
	7	マコモ収穫祭	福	・マコモの収穫体験、食事会等の交流イベントの開催	H24.10.14	30
	8	イガテハク@伊賀でデザイン博	イガテハク実行委員会	・全国から集まったアート・クラフト作家による作品展示会の開催	H24.11.30～ 12.2	5,000
	9	尾鷲・紀北地域のソーシャルレジャー	交流空間みやま、NPO法人天満浦百人会、NPO法人ふるさと企画舎	・天満荘周辺の環境整備、錦子川流域のサイクリングアップ、馬越峠周辺の植樹の実施	H24.10.20 ほか全3日	540
	10	地域づくりボランティア交流事業	熊野元気塾	・ボランティア活動に関心のある大学生と地域との交流・連携事業の実施	H24.8.17～ 21	70

○ 人と人の絆の場づくり実践プロジェクト

「人と人の絆の場づくり実践プロジェクト」では、「第 21 回全国ボランティアフェスティバルみえ」と「M祭！2012」に参画し、パートナーグループによるワークショップや活動発表・意見交換の場を設け、来場者との交流を図りました。

(表 5-9) 人と人の絆の場づくり実践プロジェクト・コアイベント一覧【H24】

区分	No	事業名	実施主体	事業概要	実施日	参加者 (延べ数)
実践プロジェクト (コアイベント)	1	M祭！(三重県総合文化センターのこどものおまつり)2012	(公財)三重県文化振興事業団	パートナーグループ(3PG)のワークショップなど	H24.8.5	-
	2	全国ボランティアフェスティバルみえ	第21回全国ボランティアフェスティバルみえ推進委員会	第13分科会(4PG出演による講演)、拡大分科会(ワールドカフェ)	H24.9.29・30	-



パートナーグループによるテーマプロジェクトの活動

(上段左から)「三重子育てITフォーラム」、「奈佐の浜海岸清掃」、「子ども防災サミット」
(下段左から)「海のバリアフリーまつり」、「東海・北陸商店街おかみさんサミット IN 松阪」、
「亀山“駅”サイティングまつり」

(4) テーマプロジェクト情報発信事業

【平成 24 年度】

平成 24 年 4 月の「美し国おこし・三重」基本計画の改定を受け、県民の皆さんがこれらの地域づくりイベントへ参加・参画いただけるように、テーマプロジェクトを効果的に情報発信し、かつ相乗的な拡がりをめざして、以下の情報発信事業を実施しました。

(情報発信事業)

- みんなで動くと、こんなにすごい！「美し国おこし・三重」フォトコンテストの実施（応募数 192 作品）
- 近畿日本鉄道（株）ラッピング電車（2 両）におけるフォトコンテストポスター及び入賞作品の集中掲出
- 「美し国おこし・三重」PRポスターの作成（3 種類）
- 地域情報誌「ふーどら」における情報発信
- チラシ、ノベルティグッズ等の製作

(フォトコンテスト入賞作品)



(上段) グランプリ 「Ninjas」 辻 正幸さん (伊賀市)
 (下段左) 準グランプリ 「もういくつ寝るとお正月！」 重井 未樹さん (津市)
 (下段右) " 「美しの笑顔」 山崎 明教さん (鈴鹿市)



「美し国おこし・三重」PRポスター